

国ハ重ニ欧露トノミ密接ノ關係ヲ有シ殊ニ債務問題ノ解決上重大ニシテ複雑ナル事情アルカ為露国ト急速国交ノ回復ヲ見ル能ハサルカ如キハ大ニ日本ノ境遇ト差異アルヲ思ハサルヘカラス然レトモ若シ我邦カ各国ニ率先シ単独ニ露国政府ヲ正式ニ承認スルヲ憚ラハ之カ承認ノ手續ヲ採ルト同時ニ各国ニ向ッテ前記ノ理由ト事情ニ由リ協調ヲ保ツ能ハサルコトヲ声明セハ充分ナラント信ス

又将来ニ於ケル「ソヴィエト」政府政綱如何ニ関シ世上杞憂ヲ抱ク者ナシトセサルカ該政府ハ因ト共產主義ノ社会制度ヲ創設センコトヲ綱領トシテ樹立セラレ劈頭第一ニ政治上及社会上国民ノ階級ヲ打破シ又經濟上ニ於テハ私有財産ヲ撤廃セリ即經濟組織上ノ問題トシテハ從來ノ資本財産ヲ国有トシ絶對ニ個人ノ所有權ヲ否認スル新制度ヲ建設シタルモノナリ該政府ハ其成立後直ニ土地ヲ国有トシ森林鉦山鐵道工場製造所ヲ国有トシ而シテ商工業ヲ國家ノ独占事業トナセリ先ツ農業ニ於テハ總テノ土地ヲ国有トシ之ヲ農民ニ貸与シテ耕作セシメ其生産物ハ農民ニ必要ナル分量ヲ除キ剩余ハ之ヲ政府ニ徵收シテ一般国民ニ分配スルコトトシ次ニ工業ニ於テハ森林鉦山及工場ノ全部ヲ国有トシ國家カ

天下ヲ取りタルヲ以テ苟且ニモ此主義ヲ抛棄センカ忽チ其威信ヲ失墜シ復タ之ヲ挽回スヘカラサルニ至ルヘキハ必然ノ勢ナリ故ニ露国ノ政策ハ全然資本主義ニ復歸スルコトナシトスルモ漸次之ニ傾キツアルハ既ニ爭フヘカラサル事實ナレハ結局共產主義ト資本制度ノ中間ニ落付キ一種変態ノ折衷制度ヲ執ルニ至ルヘシト予測スルコト必スシモ不当ニアラス

次ニ「ソヴィエト」政府ハ猶太人ノ政府ニシテ露西亜ヲ支配スル者ハ猶太人ナリト速断スル者鮮ナラスト雖モ是レ重ニ反過激派其ノ他ノ宣伝（「ニールス」氏著「猶太禍」ノ如キハ最モ甚シキモノ）ニ依ルト中央執行委員會ノ幹部及國務大臣（人民委員）ノ内ニ比較的多數ノ猶太人「トロツキー」、「カーメネフ」、「ジノウウィエフ」等ノ如キアリテ相当有力ノ人物アルニ基因スルモノナリ然レトモ之ヲ以テ直ニ露国ハ猶太人ノ天下ナリト称スルハ失当ニシテ現ニ「ソヴィエト」政治ノ柱石ト称セラルル「レーニン」ハ勿論露国ノ最高権力タル連邦會議及中央執行委員會ノ議長タル「カリーニン」モ亦露人ナリ其他國務大臣及共産党領袖中露国人ノ外波蘭人、「アルメニヤ」人、独逸人ノ如キ外

自ラ之カ經營ニ從事シ其ノ生産品ヲ一般国民ニ分配スルコトトセリ故ニ最初労働者ニ對シテハ賃銀制度ニ依ラスシテ切符ニ由ル現品給与制度ヲ採レリ又商業ニ於テハ内地商業モ外国貿易モ皆之ヲ國家ノ独占トシ個人ノ營業ヲ否認セリ要スルニ總テノ生産手段ヲ國家ヨリ手ニ収メ國家自ラ總テノ生産ヲ營ミ其生産品ヲ國家ヨリ直接国民ニ分配給与スルヲ以テ市場又ハ個人商業ノ必要ヲ認メサリシナリ如此ニシテ「ソヴィエト」政府ハ「マルクス」ノ思想學說ヲ主義上ニモ實際上ニモ其儘実行セント努力セシカ理論ト實際ハ常ニ背馳シ易ク人間ノ經濟的性能力ヲ無視シタル組織制度ハ忽チ農民ヲ始メ一般国民ヲ懶惰ニ導キ産業ハ振ハス国民ノ日用必需品スラ供給スル能ハス民心ノ動搖ト反感ヲ招キ主義ニ忠ナラント欲セハ自己ヲ破滅セントスルノ危險ヲ感シ政策ヲ改ムレハ主義ニ不忠ナルノ謗ヲ免カレス進退維谷ノ窮境ニ陥リタルヲ以テ茲ニ一種ノ緩和手段タル新經濟政策ヲ案出シ或ル程度迄私有財産ト個人ノ商工業ヲ認メ僅カニ一道ノ活路ヲ得タルノ觀アリ而シテ前記政策ハ實施後漸次資本制度ニ復歸スルノ傾向愈々濃厚ナラントシツツアルモ「ソヴィエト」政府ハ其成立ニ際シ共產主義ノ大旗ヲ標榜シテ

国人ハ猶太人ニ比シ遙カニ多數ナルハ論ヲ俟タサルトコロナリ由來露西亜ハ反猶太思想ノ最モ旺盛ナリシ邦国ニシテ国民ノ大部分カ露人タル以上猶太人ノミノ政府ニテハ民心ヲ收攬シ輿望ヲ繫クコトハ不可能ナリ故ニ單ニ政府部内ニ多數ノ猶太人アリテ且有力ナリト云フ事實ノミヲ以テ直チニ猶太人ノ露国ナリトカ或ハ猶太人ノ世界的革命ニ関スル陰謀ノ一端ナリト速断スルハ早計ナリト信ス

### 3 北京ニ於ケル予備折衝

三〇三 七月二十八日 在北京坂西中将ヨリ  
武藤參謀次長宛（電報）

カラハン來支ニ関連セル中国側情報報告ノ件

坂電第二三六号 （七月二十九日接受）

在莫斯科沈崇勳二十四日付外交部宛來電

「カラハン」ハ三十日莫斯科出發「チタ」ニ赴キ二日滞在後哈爾濱ヲ經テ北京ニ到ル旨日露會議ハ頓挫セリ「カラハン」ノ渡日期モ未定ナリ又尼港問題ニ関シ「ソビエット」會議ハ「ヨッフエ」カ國權ヲ損失セルヲ攻撃シアリ是レ同人召還ノ原因ナリト云々

五 日露国交回復交渉関係 三〇四 三〇五 三〇六

顧維鈞ハ王正廷ニ速ニ帰京シ支露會議ヲ進行スヘキヲ勸告  
シ尙王ハ二十七日入京セリ

三〇四 八月十三日 内田外務大臣ヨリ  
在米国埴原在仏国石井大使宛(電報)

日本トノ正式交渉ヲ希望セルカラハンノ談話

二 閣シ情報送達ノ件

合第一六〇号

東方通信ニ依レバ新ニ極東全權ニ任命セラレタル「カラハ  
ン」ハ秘書「シェバーレフ」及「ロスタ」通信員「ウォズ  
ネセンスキー」外五名ト共ニ二十二日満州里着露支兩國民ノ  
歡迎ヲ受ケ同日「ハルビン」ニ向ヒ出発セル由ノ処同社記  
者トノ会談ニ於テ誠心誠意日本トノ正式交渉開始ヲ希望セ  
ルコト但シ「ロシヤ」ハ何レノ国トモ取急ギ不合理ナル条  
約ヲ結ブ必要ヲ感ジ居ラザルコト並ニ北京着ノ上ハ直ニ支  
那ト交渉ヲ始メル旨ヲ語レル趣ナリ

(米へへ) 紐育へ転電アリタシ

(仏へへ) 英、独、波蘭、瑞典、リガ及ヘルシンキへ転  
電アリタシ

機密公第二八号

(十月二十六日接受)

大正十二年九月十三日

在波蘭

臨時代理公使 井田 守三(印)

外務大臣伯爵 山本 権兵衛殿

日露交渉ニ対スル露国側ノ態度ニ関スル件

本件ニ関シ佐々木書記官ヨリ別紙報告書提出有之候ニ付右  
玆ニ及御郵送候 敬具

本信写送付先

英、仏、独、墺、瑞典、芬蘭、里賀

(付属書)

日露交渉ニ対スル露国側ノ態度ニ関スル件

佐々木書記官報告

一、八月二十六日日本官カ露国連邦(SSSR)政府外務部  
極東局長「ドゥホフスキー」氏ヲ訪問シタル際同人ハ一  
応ノ挨拶ノ後突然露国政府ハ日露間ノ無益ナル非公式交  
渉ヲ重ヌルヲ不利トシ正式交渉ヲ開始セントシテ「カラ  
ハン」ヲ全權代表ニ任命セントスル旨日本政府ニ提議シ  
タルニ対シ日本政府ハ回答シ来ラサリシ為メ「カラハン」

五 日露国交回復交渉関係 三〇六

四五四

三〇五 八月二十八日 在スウェーデン国畑公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

カラハンノ駐支公使任命ニ関スル情報報告ノ

件

第一一二号 (八月二十九日接受)

二 瓶ヨリ左ノ通

露国ノ組織変更ノ結果各部長官新タニ任命セラレ次官以下  
ハ長官ニ於テ選任スルコトナリ「リトウィノフ」外務次  
官ニ決定シタルタメ「カラハン」ハ目下比較的重要視セラ  
ルル支那公使ニ任命セラレタル次第ナリトノ説アリ  
新聞論ニ依レハ露国ハ日露交渉ノ前途困難多シト観テ日本  
ノ官民ヲジラス為「カラハン」ヲシテ露支交渉ヲ急カシメ  
ントスルモノノ如シ

英仏独波蘭へ暗号ノ儘郵送セリ

三〇六 九月十三日 在ポーランド国井田臨時代理公使ヨリ  
山本外務大臣宛

日露交渉ニ対スル露国側ノ態度ニ関スル佐々

木書記官報告提出ノ件

付属書 佐々木書記官報告

ハ已ムヲ得ス北京ニ赴クコトナリタリ貴官ハ此事実ヲ  
知レリヤト詰問の語調ヲ以テ質問シタルニ付本官ハ全ク  
関知セサル旨可然答ヘ置キタリシガ本件ニ関シ同人ハ頗  
ル不機嫌ノ様子ヲ示シタリ

二、本官ノ南露方面旅行ハ右対談ノ後詮議ノ結果不許可ト  
ナリ其口実トシテ日本官吏タル本官ニ対シテハ許可シ難  
シ目下莫斯科滞在中ノ日本実業家ノ申出ニ対シテハ別ニ  
詮議スベシトノコトナリシカ其後本官ハ「ペトログラ  
ド」行ヲ申出タルニ対シテモ数日ノ後同地ハ勿論「ニ  
ズニ、ノヴゴロド」歳市ノ視察モ許可セストテ峻拒セ  
リ日本官吏ナルカ故ニ内地旅行ヲ許可セストノ意ハ日本  
ニ於テ露国官吏ニ対シテ同等ノ待遇ヲ与ヘサリシヲ以テ  
相互主義ニ基キ許可ヲ与ヘストノ意カ或ハ又前項ノ如ク  
日本政府ヨリ希望セル回答ニ接セサルヨリ犬糞の敵討ト  
シテ本官ニ対シテ抑圧ヲ加ヘタルモノナルカ其辺ノ理由  
明カナラス

三、露国外務当局者ハ日本実業家団ヲ巧ミニ籠絡シ之ヲ内  
外宣伝ノ用ニ供セントシ「カリーニン」「カーメネフ」  
「チチュリン」「クラシン」等ノ巨頭ニ面会セシメタル

四五五

五 日露国交回復交渉関係 三〇七

コト既電ノ如シ勿論之ハ日露間ノ国民外交ニ利用シ兩國ノ連鎖タラシメントノ計画ニ出タルモノニ相違ナキモ山崎団長カ「クラシン」ニ面会セントキ日露兩國間ノ交渉ト離レテ私人商業代表者ヲ莫斯科ニ残置シ日露通商ノ現実開始ニ着手シタキ旨申入レタルニ対シ「クラシン」ハ責任アル政府ノ代表者ヲ交換スルニアラサレハ結局無効有害ニ終ルヘント陽ニ本邦実業家ヲシテ本国政府ヲ刺激セシムヘキ「ヒント」ヲ与ヘタル由ナリ

四、「ヨッフエ」ノ帰国ハ同人妻ノ要求ニ因ルモノナリト伝聞セシカ「ヨッフエ」ト日露記者俱樂部トノ衝突ハ米國新聞紙ニ依リテ其概要ヲ莫斯科政府ノ知ル処トナリ之レカ真相ヲ窮メントシテ焦慮セシ形跡アリシカ今回日本実業団中ニ加ハリ入露セシ日本電報通信員ニ依テ「ロス」社長ニ委曲詳報セラレ外務当局者ノ耳ニモ入リタルカ如シ而シテ露國ハ宣伝ヲ以テ唯一ノ武器ト心得居ルヲ以テ日本ニ於ケル新聞記者トノ衝突ハ露國外交上ノ一大失態ト考ヘ居ルモノト思考セラル之カ為メカ九月二日「ヨッフエ」ハ家族及秘書ト共ニ莫斯科ニ到着シ日本人中之レヲ出迎ヘタルモノアルニ拘ハラヌ新聞紙ハ終ニ同

日秘書ヨリ当館員ヲ通ジ本使ノ内意ヲ照会シ来レル処本邦震災後ハ各方面ノ見舞客昨今尚陸續トシテ絶ヘズ已ムヲ得ザル向キトノ接見ノミニテモ終日忙殺セラレ居ル実情ナルヲ以テ不取敢館員ヨリ右ノ事情ヲ説明シ置キ本使ニ於テハ何レ近日適當ノ機会ニ於テ喜ンデ会見スベキ旨回答セシメタリ

追テ「カラハン」トノ会見ニ際シ本使ニ於テ何等含ミ置ク可キ事モアラバ何分ノ儀御回示相成タシ

三〇八 九月十八日

山本外務大臣ヨリ  
在中国芳沢公使宛(電報)

カラハンノ会見申入レニ対スル当方応対振回

訓ノ件

第五六三号

貴電第八二六号ニ関シ

貴官ハ「カラハン」ノ申出ニ応シ近日中同人ト会見セラルル様致度ク其際先方ヨリ震災ニ付何等挨拶ヲ為ス場合ニハ勞農政府カ今回ノ震災ニ対シ表明セル同情ハ帝國政府ノ深刻感謝スル所ナル旨ヲ述ヘラレ只「レーニン」号ニ付多少行違ヲ生シタルハ遺憾トスル所ナルモ右ニ付テハ往電第五

五 日露国交回復交渉関係 三〇八 三〇九

人ノ帰國ヲ報道セサリキ

四五六

五、露國当局者間ニ於ケル後藤子爵ノ声望ハ予想以上ニシテ同子爵ヲ會長トスル日露協會員タルト否トニ依リ日本人ノ對露觀ヲ識別セントスル傾向アリ極東局日本課長「ベルリン」氏カ本官ニ對シテ日露協會員ナリヤ否ヤヲ質シ本官ハ同會員タル旨ヲ答ヘタルトキ満足ノ意ヲ表ハシ且ツ之ヲ上司ニ報告シタルカ如キハ其一例ト見ルヲ得ヘシ而シテ新山本内閣発表セラルルヤ後藤子爵ノ名カ閣員中ニ列シアルヲ見テ露國外務当局者ハ日露交渉ノ前途ニ對シ多大ノ望ミヲ囑シ居ルモノト見ヘタリ

六、以上本官ニ對スル抑圧、日本実業家團ノ歡迎引見等要スルニ日露交渉促進ノ希望ヨリ打算セラレタル小策ニ過キスト考ヘラル

三〇七 九月十五日

在中国芳沢公使ヨリ  
山本外務大臣宛(電報)

カラハンヨリノ会見申入レニ対スル応対振ニ

付請訓ノ件

第八二六号

(九月十七日接受)

「カラハン」本使トノ会見ヲ希望シ居ル趣ヲ以テ九月十四

六二号ノ趣旨殊ニ目下震災地ノ秩序十分回復セサル今日ニ於テハ露國救恤品ヲ罹災労働者ノミニ分配スルコト不可能ナル事情ヲ篤ト説示セラルル様致度又日露交渉ニ関シ先方ヨリ何等申出ツル場合ニハ単ニ之ヲ聴キ置クニ止メ其ノ要旨直ニ当方ヘ電報アリタシ

三〇九 九月二十二日

在中国芳沢公使ヨリ  
伊集院外務大臣宛(電報)

カラハンヨリノ日ソ交渉再開申入ニ関シ政府

ノ意向請訓ノ件

第八六一号

(九月二十三日接受)

貴電第五六三号ニ関シ九月二十二日「カラハン」本使來訪先ツ震災ニ對スル同情表示ノ挨拶アリタルニ對シ本使ハ今次ノ事變ニ付露國官民ノ表明セル深厚ナル同情ニ對シテハ帝國政府ニ於テモ深刻感銘シ居ル所ナル旨然ルヘク応酬シ次テ「カ」ハ今次事變以來露國官民ノ日本ニ對スル同情旧ニ倍スルノ現状ナルニ顧ミ自分ハ之ヲ以テ何レ日露交渉再開ノ好機會トモスル次第ナル旨ヲ述ヘタルヲ以テ日露接近ノ企圖ハ兩國接壤ノ關係ニ顧ミ本使ニ於テモ主義トシテ至極同感ナルモ日本ニ於テハ目下上下挙テ震災善後策ノ為全

四五七

力ヲ尽シ居ル事情モアリ旁々實際日露会商再開ニ付帝國政府ニ於テ如何ナル意向ヲ有スルヤハ本使ニ於テ承知セサル所ナル旨ヲ答ヘタルニ「カ」ハ更ニ(一)日本政府ニ於テ国内復興事業ノ為多忙ヲ極メ居ル事情ニ拘ハラス若シ露国側ヨリ交渉再開ノ提議アラハ之ニ応シ得ヘキヤ(二)若シ之ニ応シ得ルニ於テハ露国側トシテハ曩ニ東京ニ於テ行ハレタル交渉カ中絶シタルニ顧ミ今回ハ非公式交渉ノ形式ニ依ラス直ニ正式交渉トシテ開会スル方得策ト思考セラルルカ如何此二点ニ付日本側ノ意向ヲ承知シタキ旨ヲ申出タルカ本使ニ於テハ此等ノ点ニ関シ何等本國政府ノ意向ヲ承知セサルヲ遺憾トスルモ御申出ノ趣ハ之ヲ政府ニ通シ置クヘキヲ答ヘタルニ「カ」ヨリ重ネテ右ニ対スル日本政府ノ意向ヲ承知シタキ旨ヲ申出タリ就テハ右ニ対シ何分ノ御電訓ヲ請フ本会見ニ於テ本使トシテハ単ニ前記貴電末段御來訓ノ趣旨ニ依リ応酬シ置クニ止メ置キタリ

尚「レニン」号ノ件ニ関シテハ九月十八日付「ノート」ヲ以テ勞農事務所ヨリ同船ガ横浜退去ヲ命セラレタル新聞報道ノ真否ニ付照会越ノ次第アリタルヲ以テ二十日黒沢ヲ先方ニ遣ハシ貴電第五六二及五六三号ノ趣旨ニ依リ詳細ノ説

三一 十月七日 在浦潮渡辺總領事代理ヨリ  
伊集院外務大臣宛(電報)

日露交渉再開問題ニ関スル当地新聞論調報告

ノ件

第七五三三

(十月八日接受)

貴電第四五四号末段「カラハン」ノ在支公使訪問ニ関スル新聞報ハ当地ニモ伝リタルカ五五大阪発「ロスタ」ハ政府カ露国トノ会商再開ニ決セル旨朝日新聞ヲ介シテ声明シタル事山本首相カ政府ノ最重要案件トシテ同会商準備ヲ至急着手方外相ニ命シタルコト会商カ十月二十日以前ニ開始サルヘキ旨ヲ報スルヤ七日ノ機關紙ハ是ヲ別活字ニテ掲載シ且社説ニ於テ最大重要問題ト題シ大要左ノ通り論セリ

約一週前米電ハ日本政府ノ対露交渉再開ヲ報シ続イテ日本当局ノ取消アリ今ヤ又其ノ再開決定ノ報ニ接セルカ吾人ハ夙ニ日本当局ノ一般政策並対露方針ニ於テ其言行一致セサルヲ經驗セルカ故斯ル矛盾ノ繰返サルヲ敢テ奇トセス本矛盾ハ個人又ハ有力家間ノ意見相異スルニ非スシテ日本全体ノ經濟の利害ト自己ノ旧地歩確保擁護ヲ欲スル「ミリタリスト」一派ノ撞着ナリ日本軍國派カ十數年來夢想シタル

明ヲ与ヘ置キタル処本日ノ会見ニ於テハ先方ヨリ何等本件ニハ言及スル所ナカリシニ依リ其儘トナセリ  
尚後藤子爵ノ「ヨッフエ」ニ対スル伝言轉達ノ件ニ談及シタルニ恰モ昨日「ヨッフエ」夫妻ヨリ謝意伝達方申越セル旨ヲ語レリ

三一〇 九月三十日 在中國芳沢公使ヨリ  
伊集院外務大臣宛(電報)

カラハントノ会談ニ関連スル英公使ノ質問ニ

付報告ノ件

第八八六号

(十月一日接受)

往電第八六一号本使「カラハン」ノ会見ニ付テハ外間種々ノ揣摩臆測ヲ加ヘ昨今相当新聞論壇ヲ賑シツツアル処九月二十八日本使英國公使ニ面談ノ際同公使ハ種々「カ」來談ニ付内容ヲ推問シタルヲ以テ「カ」ヨリ日露交渉再開方ノ希望ヲ述ヘタルモ本使トシテ単ニ聞キ置クニ止メタルノミニテ從テ交渉開始ノ場合ニ於ケル地点其他ニ関シテハ何等談及セルコト無キ旨簡單ニ答ヘ置キタリ尚英公使ハ「ヨッフエ」來京當時前任英公使ニ於テ「ヨ」ヲ往訪セサリシ趣ニ付今回自分モ未タ「カ」ヲ往訪セスト語レリ御參考迄

「大日本」政策カ失敗ニ帰シ最近數年間多大ノ犠牲ト失費ヲ為シテ努力シタル冒險の事業カ日露通商ヲ阻害シ經濟上有害ナリシハ日本ノ広キ勞働界ノミナラス實業界モ能ク知リ日本ノ為ニハ條約ニ依リ平和的通商關係ヲ確定スルニアルヲ明ニ認知スルニ至リタリ是レ農工業其他ノ危機カ政府並政友会ニ對シ不審ヲ抱カシムルニ至リタル所以ニシテ當局ノ行動ト實際要求トノ現關係ハ宛モ日露戰後當時ノ露國ノ事態ニ似タルモノアリ日本政府ハ一面白軍ヲ援助シツツ大連長春會議ヲ試ミ今ヤ軍國派ハ失脚シタルモ尚是ヲ認ムルヲ欲セス最近ノ災害ハ日本ヲ米國資本ノ權下ニ陥レントシ事態一層困難ナリ經濟的自衛ノ必要ハ強硬ニ日本ヲシテ露國トノ接近ニ進マシメントシツツアリ今ヤ躊躇遷延ノ時ニ非ス如何ニ軍國派カ旧政策ニ固着セントスルモ國家民衆ノ利益ハ政府ヲシテ經濟上ノ必要ニ向ヒ進行スヘキヲ(脱)セリ露國トノ平和的通商ハ日本現情ノ最大問題ナリ云々

三二 十月七日 在北京カラハンヨリ  
後藤子爵宛

カラハンヨリ後藤新平内相ニ宛テタル日露国交正常化ノ樹立ヲ望メル書翰ノ件

東京

子爵 後藤新平閣下

親愛ナル後藤子爵

閣下並ニ余ニ取りテ一様ニ緊要ナル事柄ニ関シ此処ニ意見ノ交換ヲ為スノ機会ヲ得タルハ余ノ幸福トスル所ナリ閣下が貴重ナル注意ト多大ノ努力トヲ貢獻セラレタル日露問題ニ対シテハ凡ソ兩國国民ノ親交ヲ以テ極東及太平洋一帯ノ平和ト秩序ト繁栄ノ保障ナリトスル民人ハ拳テ新ナル努力ヲ致サザルベカラズ不幸ニシテ日露問題ハ日本国民ノ遭遇セル恐れベキ災厄ノ為メ暫ク延期スルノ已ムヲ得ザル状態ニアリキ此ノ恐れベキ時期ニ於テ日本ノアラユル注意深キ思念ハ幾万ノ被害者ニ対スル救済事業ノ上ニ集中セラレ正シク日本国民ノ誇リトスル忠実ナル勇氣ヲ以テ日本官民ハ未曾有ノ震災ニ由リ蒙リタル瘡痍ヲ医シ覆サレタル時態ヲ復旧シ得ベキ方策ヲ講ゼンガ為メ能フ限りノ注意ト努力トヲ傾到セリ

此ノ日本国民ノ不幸ト哀傷ノ時期ニ際シ余ハ我共和国ノ官民ガ克ク其ノ義務ヲ遵守シ日本国民ニ対スル深厚ナル哀悼ト同情ニ満チタル感情横溢シ被害者ノ救助ト義捐金品ノ募

モノナリシガ今又無思慮且無謀ニモ兩國民間ニ醸成セラレツツアリシ相互的了解ニ一大打撃ヲ加ヘタルモノナル事明白トナルニ至レリ

友誼的援助ヲ齎ラシテ横浜ニ来レル我国ノ汽船ニ対シテ理由ナキ譏謗ヲ敢テシタルハ日露接近ノ敵者ノ所為ナリシコト疑フ容レザル所ナリ這ノ悲シムベキ事件ノ勃発ニ関シテハ過テ貴国ニ亡命シタル彼ノ多数ノ「白色」移民ニ負フ所鮮ナカラズ彼等「白色」分子ハ畜ニ這回ノ如キ個々ノ場合ニ於テ有害ナルノミナラズ露国ノ事情及露国ノ政策ニ関シテ単ニ日本ノ種々ノ当局者ニ対シテノミナラズ——遙カニ危険ナルハ——日本ノ各種ノ官立機関ニ対シ永遠ニ虚偽ノ情報ヲ齎ラス源泉タランコトヲ恐れベキナリ

「レニン」号事件ハ余ヲシテ自ラ警戒セシメ且ツ吾人ノ推想ハ果シテ誤解ニハアラザリシヤ、日本ガ真実我国トノ接近ヲ希望スルモノノ如ク信ゼシハ果シテ吾人ノ誤解ニハアラザリシヤヲ考慮セシメタリ其最初ニ於テハ事件発生後最初ノ瞬間ニ於テ兩國間ニ再び相互的了解ノ欠如テフ深淵ハ創造セラレ主トシテ閣下ノ不撓ナル助力ト貴重ナル援助トヲ以テ遂行セラレタル斯ノ偉大ナル事業ハ再び当初ニ溯リテ

集ノ為メノ一大運動ヲ以テ之ニ応ジタルノ事実ヲ証明シ得ルヲ欣ブモノナリ

爾来「ソヴェエト」共和国全土ニ亘リ勞役者ハ自個ノ得タル賃金ヲ割キテ以テ救済基金ニ応分ノ寄付ヲナシ来レリ、今日猶且然リ、然リ而シテ這回貴国ノ災厄ニ対スル我国ノ響応ハ単ナル公式ノモノニアラザリキ蓋シ其ハ全国民ノ感情ノ発露ニシテ啻ニ深甚ナル同情ニ止マラズ日本国民ニ対スル露国民ノ更ニ広キ肉身の友誼ノ発現ニ外ナラザリシヲ以テナリ然レ共同時ニ吾人ハ我国ノ這箇ノ衝動ニ対シ一ノ暗影ヲ投ジタルノ事実ヲ黙過スル能ハズ「レニン」号ニ関スル事件是ナリ

該汽船ニ対シ与ヘラレタル横浜退去命令ニ関連スル不面目ナル処置ニ就テノ報知ニ接シタル当時ノ吾人ノ憤怒ノ情ヲ今此処ニ云々スルノ要ナシ然レ共其後種々ノ事情判明スルニ至リテ余等ハ其行為ガ地方的軍司令部ノ行為ニ過ギズシテ日本政府ハ事後ニ於テ事実ヲ承知シタルニ止マリ且日本国民ハ這ノ暴行ニ対シ何等ノ責任ナカリシコトヲ知レリ此処ニ於テカ西比利亞派遣軍ヲ指揮シ鼓舞シタル一味ノ日本軍閥ハ過去ニ於テ日露兩國ノ關係ニ多大ノ障礙ヲ与ヘタル

新タニ着手セザルベカラザルガ如ク思惟セラレタリ我国ニ於テハ是ガ部分の変更ヲ加ヘントスルノ危険ニ瀕シタリ我國ハ未ダ嘗テ日露ノ接近ト対日關係ノ確定ノ必要ヲ疑ヒシコトナク否之ニ向ヒテ絶エズ努力奮勵シ来リシハ明カナル事実ナリ然ルニ之ニ反シテ日本ノ態度ハ非妥協的ニシテ自國ノ諸同盟國ト政策ヲ共ニシトシテ吾人ノ希望ニ添フ所是アラザリキ是レ日本ヲシテ對露接近ノ必要ヲ了解セシムル為メ一大事業ヲ遂行セザルベカラザルニ至リシ所以ナリ然ルニ「レニン」号事件ハ突如トシテ我が好意的対日感情ヲ破壊セントシタリ然レドモ吾人ガ機ヲ見テ適當ナル弁明ヲ試ミ以テ時局ヲ收拾スルヲ得タルガ為——或ル種ノ疑惑ハ今尚若干存スルモ——我國民ノ友誼的感情ト更ニ密接ナル対日接近ヲ實現シ兩國ノ關係ヲ公式ニ確定セントスルノ希望ハ之ヲ維持スルヲ得タルノ一事ヲ閣下ニ通告シ得ルハ余ノ欣幸トスル所ナリサレバ若シ吾人ニシテ斯ノ全事業ヲ再び繰リ返スノ要ナシトスレバ少クトモ最大ナル氣力ト忍耐トヲ以テ之ヲ維持スルニ努メザルベカラザルナリ從來幾度ノ交渉ヲ重ネタルニ拘ハラズ實際ニ於テ日露ノ關係ハ全然異常的ノモノナルハ事実ナリサレバ若シ吾人ニシ

テ将来ニ於ケル紛議ト嫌忌スベキ事象ノ發生ヲ防ガント欲セバ兩國ノ關係ヲ確定スルコト最モ緊要ナリト信ズ

吾国ハ当初ヨリ大ニ忍容ヲ持シ何等我國ノ必要又ハ特種利益ニヨリテ要求セラルルガ如キコトナキ場合ト雖モ常ニ日本ト協調スルノ希望ヲ示シ来リシナリ

例ヘバ漁業問題ノ如キ即チ是ナリ其ノ成行ハ恐ラク閣下ノ知悉セラルル所ナラン此ノ問題ニ関シ閣下ガ仲介ノ勞ヲ執ラレタルノ事実——先第一ニ此ノ一事ニ対シ日本国民ハ閣下ニ最高ノ感謝ヲ捧ゲザルベカラズ——ハ暫ク措キ吾人ガ本年該問題ニ就キ日本ニ有利ナル解決ヲ為サント力メタルハ如何ナル動機ニ基キシヤ他ナシ吾人ハ日本人ニ対スル漁区ノ貸付ガ日本国民ニ取リ如何ニ重要ナルカヲ知悉シタルガ故ナリ兩國間ニハ未ダ何等ノ常態<sup>イミタル</sup>ノ關係存セザリシニ拘ハラズ吾人ハ日本国民ヨリ其ノ最モ重要ナル經濟的扶助ヲ奪フヲ欲セザリシナリ加之吾人ハ「ヨッフエ」氏ノ東京ニ於ケル交渉ガ究極ニ於テ成功セシコトヲ希望シ且ツ漁業問題ハ他ノ諸問題ト共ニ日本ト「サヴィエト」共和国トノ間ニ樹立セラレタル常態<sup>イミタル</sup>ノ關係ヲ基礎トシテ起タンコトヲ希望シ吾人ハ這箇ノ交渉ヲ尊重シタリ吾人ハ日露協定ノ成立

伊集院外相ノ言説ガ如何ナル程度マデ確報セラレタルヤハ余ノ関知セザル処ナリト雖モ這個ノ言説ガ時局ニ対スル最モ正当ニシテ且賢明ナル理解ヲ包含スルモノナルコトハ確實ナリ然リト雖モ伊集院氏ノ日露交渉ニ関スル言及ハ甚ダ曖昧ニシテ如何ナル好意ヲ以テスルモ其意ヲ解スルニ苦シムノミナラズ日本ハ果シテ如何ナル「周到綿密ナル調査」ヲ為シタル末公式交渉ニ入ラント欲スルモノナリヤ余ノ明確ナル了解ヲ為ス能ハザル処ナリ

然カモ事實ニ於テ兩隣接國間ノ關係再樹立ノ一日モ忽カセニスベカラサルハ多弁ヲ要セス日本領事ノ浦潮ヲ引キ上ゲタル曉ニ於テ若クハ来ルベキ漁期ニ際シテ露国当局ガ日本人ニ対シ本年度ノ如キ有利ナル漁業問題ノ解決ヲナス能ハザリシ曉ニ於テ日露兩國ノ關係ガ果シテ緊張スル事ナキヤ否ヤハ大方ノ推測ニ委セン斯克ノ如キ予想ハ彼我兩國国民ニ取リ一樣ニ嫌忌スベキモノナリト雖モ然カモ露国ト他ノ國家トノ間ニ何等ノ友誼關係存在セズ從テ相手國ノ資源開発ノ權利ヲ主張シ得ザル状態ニアル場合ニ於テ露国当局ノ所為カ不当ナリ——實際ニ於テ公平ナル事稀ナリ——トシテ是ヲ責ムルノ權利ハ何人ト雖モ是ヲ有セザルハ余ノ信ジテ

ニ先チ日本ノ利益ニ対シテ何等ノ障礙ヲモ何等ノ害惡ヲモ加ヘンコトヲ欲セザリキ

然ルニ不幸ニモ事態ハ不測ノ結果ヲ招致セリ即チ東京ニ於テ行ハレタル「ヨッフエ」川上兩氏ノ交渉ハ何等積極的<sup>フォーマル</sup>形式の結果ヲ生ゼズ斯クテ今日ニ於テハ全ク中止ノ状態ニアリ且ツ今後如何ナル時期ニ於テ如何ナル環境ノ裡ニ再ビ開始セラルベキヤ知ルニ由ナシ加之——親愛ナル後藤子爵——這回ハ全然交渉ヲ開始セザルカ若シ又開始ストセバ該交渉ハ須ク兩國間ニ常態<sup>イミタル</sup>ノ關係ヲ確立スルニ至ルベキ最後の性質ノモノタラザルベカラザルコトヲ双方ニ於テ明瞭ニ為シ置カザルベカラズ

北京駐劄日本公使芳沢氏ガ日本政府ハ這時ノ震災ニ関連スル国内事情ニ捉ハルルノ余リ仮ニ一時的ニモセヨ露西亜問題ヲ忘却シタルモノニハアラスト陳ベラレタルハ余ノ愉快ニ堪ヘサル処ナリ余ハ氏ノ見解ニ満足スルノミナラズ日本政府全体ガ之ト同意見ヲ抱持セラレンコトヲ望ムモノナリ東方通信ノ報スル処ニ依レバ伊集院氏ハ「兩隣接國間ノ友誼的<sup>フオイタル</sup>關係ヲ樹立センガ為メニハ再ビ露西亜トノ間ニ形式<sup>フォーマル</sup>的關係ヲ確立セザルベカラズ」ト述べタリト

疑ハザル処ナリトス這個ノ嫌忌スベキ予測ハ一部人士ノ想像スルガ如ク爾ク危険ナルモノナラザルヤモ知レズト雖モ然カモ吾人ハ斯クノ如キ危惧ヲ無視スルコト能ハザルナリ然レ共余ニシテ若シ時局ノ急遽解決ノ必要アリト思考ストセバソハ他ノ國際的並ニ政治的ノ意味ニ於テ更ニ広汎ナル見地即チ全世界ヲ通ジテ而シテ特ニ太平洋ニ於テ確立セラレツアル諸勢力ノ角逐ト対立ノ事實ニ鑑ミ最モ重要ナル見地ヨリスルモノニ外ナラズ凡ソ諸国民間ノ平和ト幸福ノ為メニハ須ク彼我兩國間ニ敵存スル深淵ヲ除去スルヲ要ス是レ單ニ兩國ノ為メノミナラズ進ンデ太平洋沿岸諸國ノ為メニ外ナラズ是ガ解決一日ヲ忽ウセンカ乃チ恐ル收拾スベカラサル不測ノ影響ヲ生ゼンコトヲ

親愛ナル後藤子爵、余ガ這個ノ思想ハ甚ダ簡單明瞭ニシテ何等特別ノ弁明ヲ要セズ余ハ未ダ閣下ト相識ルノ光榮ヲ有セズト雖モ余ハ弊信ヲ認ムルニ当リ恰モ旧知ニ対スルノ感アリ蓋シ余ノ友人ヲ通ジ且ツ閣下ガ余ノ友人並ニ「チチェリン」氏ニ送ラレタル書翰ヲ通ジ世界ノ情勢ニ対スル閣下ノ意見ヲ承知シ居ルガ故ナリ

然ラバ這ノ兩隣接國ヲ阻隔スルモノハ果シテ何ゾヤ乃チ相

互意見ノ交換ヲ以テ解決ヲ期セザルベカラサル問題ヲ玆ニ簡單ニ敘述センカ、尼港問題ニ関シテハ何等根本的意見ノ相違アルナク単ニ語句ノ問題タルニ過キズ北薩哈連問題ニ関シテモ何等意見ノ齟齬ヲ見ズサレバ要ハ「ツァー」露西亞ト日本トノ間ニ締結シタル国債並ニ旧条約ノ問題ニアリ兩國意見ノ相違ハ正ニ這ノ最後ノ点ニアリテ存スルモノノ如シ

日本ハ戦時債務及旧条約ノ承認ヲ頗ル強硬ニ主張スト雖モ是等兩箇ノ問題ハ日本国民ニトリテ緊要欠クベカラザルモノニアラザルハ多ク弁明ノ要ナシ真個日本ハ該債務ノ即時支払ヲ要求セズ単ニ其ノ承認ヲ要請ス從テ這ハ日本国民ニ對シ何等ノ実益ナク単ニ主義ノ問題ナリ而カモ這箇ノ要求タルヤ明カニ吾人ガ「ゼノア」及「ヘーグ」ノ會議ニ於テ協商諸国トノ間ニ協調シ得ザリシ処ノモノナリ況ンヤ今日ニ於テ是ガ協調ヲ實現セシハ更ニ一層ノ困難アラン我國ガ其ノ實力遙カニ薄弱ナリシ一年乃至一年余以前ニ於テスラ諸強国トノ間ノ不調ヲ恐レザリシトセバ其ノ勢力ガ経済的ニモ軍事的ニモ將又國際の見地ヨリスルモ著シク強大トナレル今日果シテ日本国民中一人ト雖モ這ノ点ニ関スル意見

ニアラザルベシ然レ共旧契約全部ヲ悉ク無条件ニ承認スベシトナスガ如キ盲目ニシテ執拗ナル要求ハ相互間ノ接近ニ人為的障礙ヲ加ヘンコトヲ希望スル者ニアラズンバ提出スルヲ得ザルモノナリ

日露問題ヲ合理的ニ解決セント欲セバ須ク兩國国民ノタメ根本的ニ必要ナル該問題ヲ掲ゲテ之ヲ解決スルガ如キ条約ヲ締結セサルベカラズ即チ死セル慣例乃至國際の一致行動ト云フガ如キ疑ハシキ義務ヲ顧慮スルコトナク宜シク生ケル國民ノ為メニ資スベキ解決ヲナサザルベカラザルナリ此ノ点ヨリ觀レバ日露兩國ノ間ニ締結セラルベキ条約ハ千九百二十二年「ラバルロ」ニ於テ露獨間ニ結バレタル彼ノ「ラバルロ」条約ニ類スルモノナラザルベカラザルモノノ如シ該条約ニ依レバ一方過去ノ關係ハ悉ク葬リ去ラレタルト同時ニ他方露獨兩國國民ノ将来ハ新規且ツ明白ナル基礎ノ上ニ建設セラレ徒ラニ過ギシ日ノ災厄ノ跡ヲ追フ事ナク又不必要ナル計算ニ没頭スルガ如キコトナカリキ余ハ此ノ原則ヲ稱シテ「相互的恩赦」ト言ハントス而シテ日本國民ノ利害ニシテ正當ニ了解セラレタランニハ正シク此ノ種条約ノ締結ヲ促進スベシ

ノ一致ヲ實現シ得ベシト思惟スル者はアリ得ベキヤ吾人ニ對シテ戦時債務ノ承認ヲ要求シ得ル者ハ実ニ我國トノ協調ヲ欲セザル者ノミナリ

旧条約ニ関シテモ等シク吾人ハ是ガ概括的承認ヲ為スコト能ハズ即チ千九百十五年<sup>(マダ)</sup>日露間ニ締結セラレタル同盟条約並ニ其ノ秘密的追加条項(吾人ハ今日ニ至ルマデ不幸ニシテ是ヲ公ニセザリシコトヲ此ノ機ニ於テ付記スルヲ許サレヨ)ヲ指示スレバ充分ナラン是ニ對スル吾人ノ無条件承認ヲ主張スルハ果シテ可能ナリヤ今日日本政府自ラ之ヲ固執セント欲スルモノナリヤ否ヤ余ハ疑ナキ能ハズ千九百十五年ノ条約ノミヲ以テシテハ是ヲ固執スル事能ハザルノミナラズ其他幾多ノ条約ヲ以テスルモ這箇ノ主張ヲナスコトヲ得ザルナリ勿論是等条約中ニハ今日尚効力ヲ有スル箇所アリ是ニ對シテハ吾人ハ何時ニテモ承認ヲ躊躇スルモノニアラズ然レ共是等条約ノ内容ノ大部分ハ廃棄スルカ然ラズンバ根本的更改ヲ加ヘザルベカラザルモノナリ

日本政府ハ其ノ繼承財産中ノ如何ナル部分ヲ保存セント欲スルヤヲ明カニ指摘スルヲ得タリ而シテ吾人ハ兩國間ノ新タナル關係ニ適合スルモノニ對シテハ決シテ拒否スルモノ

旧条約ニ関シテハ單ニ兩國國民ノ現在並ニ将来ノ關係ノ為メ真ニ必要欠クベカラザル部分ノミヲ保持スベシ例ヘバ若シ貴国ニ於テ希望セラルルニ於テハ吾人ハ先第一ニ漁業問題ニ對スル前回ノ解決ヲ承認スルヲ得ン加之該問題ハ将来一層日本國民ノ為メニ有利ナル精神ヲ以テ改善セラルベキナリ

加之兩國間ニ生ズル問題ニシテ單ナル死文の主義原則ニ拠ルモノニアラズシテ生キタル重要ナル利害問題ナルニ於テハ兩國國民ハ「ツァー」露西亞トノ間ノ旧条約以上ニ密接ナル協約ヲ締結スルヲ得ベキナリ、吾ガ親愛ナル後藤子爵、閣下ハ「チチェリン」氏ニ送ラレタル貴輪中頗ル貴重ナル一ノ暗示ヲ与ヘラレタリ即チ閣下ハ或ル国々ニ於ケル排日運動ト関連シテ日本人ノ為メニ新タナル形勢ノ醸成セラレタルコトヲ指摘シ「新露西亞ノ經濟的資源ヲ獲得」スルノ必要ヲ論ゼラレ且ツ「是ハ兩國民間ニ於ケル共通の利害ノ原則ヨリスルモ日本ニ對スル助力トナラン」ト陳ヘラレタリ

右ハ閣下ガ本年八月十日即チ貴国ノ怖ルベキ災害ニ先ツコト三週間前ニ発表セラレタル御意見ナリ而シテ今日ニ於テ

ハ這ノ御意見ハ更ニ一層重要ナルモノトナレリ余ハ閣下ノ御意見ニ対シ徹頭徹尾賛意ヲ表スルモノニシテ而シテ吾人が益々貴国トノ協調ヲ切望スルハ勿論貴国ノ欠乏セル我が天然の資源ニ依ル援助ニ依リ仮令僅少ナリトモ貴国ノ経済の均勢ノ復旧ト両中心城市ノ再建ニ資スル処アラシ

然レ共更ニ竿頭一步ヲ進メント欲セバ宜シク從來ノ偏見ヲ捨テ断乎タル決心ヲ以テ真ニ国民ノ要求スル喫緊利益ノ獲得ニ努メザルベカラズ経済的自給自足国ナルノ故ヲ以テ今日敢テ露国ト友誼ヲ交フルノ緊急の必要ヲ感ゼザル諸国ヲシテ旧債務ニ関スル死セシ慣例ヲ使用セシメヨ然レ共根本的不變の重要性ニ於テ他ノ諸国ト比較スベカラザル特種ノ對露利益ヲ有スル日本ハ宜シク独自ノ方向ヲ取リテ進ムベキナリ他ノ諸国ハ露西亜ト何等ノ友好關係ヲ結バズトモ是ガ為メ毫モ不利益ヲ感ズル事無ク却テ他国ニ加フルニ侮蔑の抑圧ヲ以テシ彼等自ラノ非妥協の態度ヲ以テ他国ニモ之ヲ奨励セントスルモノナリ然リト雖モ若シ日本ニシテ徒ラニ左顧右盼ヲ是レ事トスルナク獨立闊歩スルニ於テハ一層正当ナル行動ニ出ヅベキヲ信ジテ疑ハズ

親愛ナル後藤子爵、余ハ閣下ニ対シ斯ノ如キ長文ノ書信ヲ

親愛ナル後藤子爵、希クハ日本国民ガ堂々タル態度ヲ以テ這回遭遇セル災厄ヲ脱却シ得ルノミナラズ露国問題ニ対シテモ速カニ独自の決断ヲ為スニ充分ナル力量ヲ有スベシトノ余ノ確信ヲ信ゼラレ余ノ閣下——既ニ吾国ノ旧友ト為ラレタル閣下——ニ対スル余ノ最高ノ尊敬ト誠実ナル敬意トヲ受納セラレンコトヲ

閣下ノ最モ誠実ナル

カラハン

千九百二十三年十月七日於北京

三二二 十月十六日

伊集院外務大臣ヨリ  
在米國植原、在仏國石井大使各宛  
(電報)

日露交渉再開問題ニ付ロスタ通信員ニ説明セ

ル談話内容通報ノ件

合第二七七号

本大臣ハ十三日「ロスタ」通信員「ヴォズネセンスキー」ヲ引見シ同人ノ質問ニ対シ日本ノ外交政策ハ全然獨立ニシテ日本ノ立場ハ自由ナリ日本ノ国力ハ震災ニ依リ損セラレタルモノニ非ラズ我方ニテハ露国トノ問題解決ヲ希望シ交渉ノ素地ヲ準備中ナルコトハ事実ニシテ漁業其他ノ問題ハ

五 日露国交回復交渉関係 三二三 三二四

認ムル積リニハ非ザリシナリ然カモ余ハ余ノ思想ヲ十分ニ閣下ニ表白セントスルニハ斯ノ如キ長文ノ書信數通ヲ以テスルト雖モ尚足ラザルヲ憾ミトスルモノナリ余ハ他日親シク閣下ト相見ユルノ機会ニ遭遇センコトヲ希望ス其ノ際ハ日露ノ問題ニ関スル凡百ノ事象ニ就キ一層綿密ナル且ツ一層徹底的ナル談話ヲ交換スベシ今ハ唯余ガ最モ重要ナル意見ノ幾分ヲ閣下ニ披瀝シテ我國ノ實際の立場ヲ明ラカニシ以テ兩國ノ責任アル指導者ノ間ノ相互的了解ノ進捗ニ資センコトヲ望ムモノナリ

終リニ臨ミ、親愛ナル後藤子爵、何卒余ヲシテ如斯腹藏ナキ言辭ヲ弄スルノ自由ヲ許サレヨ、サレドモ若シ余ニシテ余ガ意見ヲ率直ニ表白スルコトナク從ツテ何等ノ事實ヲモ語ル処ナカラシニハ余ハ日露兩國ノ親交ヲ妨害スルノ結果ヲ招来セン日本ノ政策中幾分ノ動揺アリ且ツ吾人ニ敵對スル一部人士ガ日本政界ニ於テ從來ニ比シ重要ナル地位ヲ獲得スルニ至リタルノ事實ハ否ムヘカラズト雖モ而カモ尚日露接近ノ為メニハ有力有為且有能ナル支持者在ルアリ斯クテ閣下ガ成功的ニ創始セラレタル這個ノ事業ニ就キ有終ノ美ヲ濟サンコトヲ切望ス

期節前纏メルコト便宜ナル可ク本大臣モ之レガ円満ナル解決ヲ希望スルモ交渉開始ノ期日其ノ他ノ詳細ハ未ダ閣議ニ於テ審議ノ運ニ至ラズト答ヘ置キタリ

(在仏大使ヘハ)

英、独、波蘭、リガヘ転電アリタシ

三二四 十月二十四日

在中国芳沢公使ヨリ  
伊集院外務大臣宛 (電報)

日本新聞通信員ニ対シカラハンノ発表セルス

テートメント送付ノ件

第九九八号

(十月二十五日接受)

十月二十四日「カラハン」ハ日本新聞通信員ニ会见ヲ求メ長文ノ「ステートメント」ヲ發表シタルカ其ノ内九月二十二日本使ト会谈ノ次第ヲ述ヘ且日露正式交渉開始方ニ付テハ既ニ「ヨッフエ」ヨリ申出アリ當時川上「ヨッフエ」間ニ往復ノ次第アル旨ヲ指摘シタル上左ノ通り述ヘタリ

If the communication of the Japanese news agency be true to the effect that the Japanese Ministry for Foreign Affairs is waiting for our formal offer to start the negotiations and will unhesitatingly accept this



proposition, such formal offer has been made long ago. Indeed the Federal Soviet Government is ready to start the official negotiations today just as it was willing to do at the end of July when in Tokyo it had proposed the official negotiations. It would be unpardonable if the two governments, both animated by equally sincere desire to enter upon the formal negotiations with each other, could not devise a way how to begin such formal conference. I should say then that, if the matter lies but in the question of the formal proposition, Japan has already received one from us, but if it be considered insufficient, there is an ample possibility to exchange views on this particular matter.

三二五 十月二十七日 在中国芳沢公使ヨリ  
伊集院外務大臣宛(電報)

カラハンヨリ当館館員ニ対シ個人的会談ヲ申

出ノ件

第一〇一一号 (十月二十八日接受)

往電第九九八号ニ関シ

在波蘭

特命全權公使 佐藤 尚武(印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

日露非公式予備交渉第五ニ関スル件

本年八月二十日付欧一機密第二三六号ヲ以テ御送付相成候  
「日露非公式予備交渉ニ関スル交換文書」中記載ノ日本側提議第五ニ関シテハ日露双方ノ議事要録共ニ露国側ノ回答ハ露国ノ国内法ヲ遵守スル条件ヲ以テセハ何等重大ナル反对ヲ惹起セスト思考スル旨ヲ記載有之該答弁ハ一応尤モナルカ如キモ之ヲ仔細ニ考慮スルトキハ尚ホ多少議論ノ余地アルカ如クニ考ヘラレ候即チ露国ノ新經濟政策ハ「レーニン」並ニ其他共產党首領連カ屢々声明セル処ニ依レハ共產主義ノ実現ヲ期スル為メノ一時ノ手段トシテ国家資本主義ヲ執リタルモノナリト云ヒ露国政府当局者モ亦国家資本主義ノ原則ニ基キ国内一切ノ資源及商工業ヲ政府ノ手中ニ掌握シ各個人ノ自由營業ハ「貸下」又ハ許可主義ニ依リテ国家自カラ經營シ能ハサルモノ又ハ自カラ經營スルトキハ損失ヲ招クモノノミヲ民間ニ貸下ケ又ハ許可シ民間ノ自由營業ハ事業ノ性質ト時間ノ制限ヲ受クルコトトナリ国家ヨリ

五 日露国交回復交渉關係 三二七

「カラハン」本邦記者団ニ会見ノ前日「カラハン」ノ秘書ヨリ館員ニ電話ヲ以テ特ニ会見ヲ求メ来リ往電所報ノ「ステートメント」ト略同様ノコトヲ語り個人的会談ヲ試ミタキ旨申出デタルヲ以テ館員ヨリ政府ヨリ何等通報ニ接シ居ラザルモ個人的会談ニハ喜ンデ応スベキ旨ヲ答ヘ翌日午前会見ノコトニ約シ置キタル処後刻先方ヨリ右会見ノ延期ヲ申越スト共ニ二十四日正午記者団ニ対シ前記ノ声明ヲナシタル次第ナルガ右ハ要スルニ館員トノ会見ニ際シ云ハント欲シタル処ヲ記者団ヲ通ジテ声明セルモノト思ハル尚粘鏡及外交部員ノ露文翻譯ヲ補助シ居ル露西亞人其ノ他ヨリ聞込メル(脱)「カラハン」ハ支那政府ニ対シ先ヅ以テ勞農政府ノ承認ヲ要求シ居ル為メ交渉行悩ノ状態ニアルモノノ如シ

三二六 十一月五日 在ポーランド国佐藤公使ヨリ  
伊集院外務大臣宛

日露非公式予備交渉第五議題中ノ問題点ニ関

シ意見具申ノ件

機密公第三一号 (十二月十五日接受)

大正十二年十一月五日

貸下又ハ許可セラレタル事業ト雖モ相当利潤ヲ挙クルトキハ許可期間經過後之ヲ国家ニ回收スルコトトナリ居リ右ハ局外者ヨリ見レハ甚タ不合理ナルカ如キモ共產主義ヲ以テ理想トスル露国ニ在リテハ当然ノ帰結ニシテ何等怪ムヘキ理由ナシト考ヘラレ候斯ノ如キ事態ノ下ニ在ル露国ト条約ヲ締結スルニ当リ在来ノ国家組織又ハ制度ノ諒解ヲ以テ単ニ相互的ニ国内法ヲ遵守スルコトヲ条件トスル而已ヲ以テ露国法ニ於テモ本邦人ノ商工業カ他国ニ於ケル自由ト同様ノ取扱ヲ受ケ得ヘキモノト想像セハ将来多大ナル誤解ヲ招致スルコトト被存候間他日日露両国間ニ公式交渉開始セララルノ日ハ特ニ此点ニモ留意シ予メ露国国内法ノ研究ヲ遂ケ在来資本主義国ノ制度ト相違スル点御研鑽相成置カレ候様致度本省当局ニ於テハ万々御遺算無之コトトハ被存候得共右心付候儘卑見及具申候 敬具

三二七 十一月初旬 欧米局第一課立案

カラハンノ日露交渉再開ノ申出ニ対シ正式交

渉ヲ開始スルニ異存ナキ趣旨ノ閣議案ノ件

閣議案

大連會議及長春會議決裂後本年二月在北京露国代表「ヨッフエ」氏来邦シ後藤子爵ヲ介シテ日露交渉再開ノ希望ヲ表示シタルニ依リ帝國政府ハ露国側トノ間ニ非公式予備交渉ヲ行ヒ以テ正式交渉ニ入ルヲ得ヘキ基礎ヲ発見スルニ努力スルニ決シ六月二十八日以降東京ニ於テ我方代表川上公使先方代表「ヨッフエ」氏トノ間ニ会谈ヲ重ネタル処露国代表ハ薩哈噠問題ニ関シテハ露領薩哈噠ヲ日本ニ売却スルコトハ応諾シ得ヘシト思惟スルモ其ノ売価ニ付テハ十五億金留以下ナルコトヲ得サルヘキ旨ヲ仄メカシ若シ右売買成立セサル場合ニハ露国ハ日本政府又ハ日本会社ニ対シ露領薩哈噠ニ於ケル石油石炭及森林ニ関スル富源開発ノ長期利権ヲ許サレタシトノ我方提議ニ対シテハ根本ニ於テ之ヲ応諾シ得ヘシト思惟スルモ其ノ条件等ニ付テハ本国政府ニ問合ハスヘキ旨ヲ述ヘ會議終了ニ至ル迄右ニ関スル確答ヲ与ヘス尼港問題ニ関シテハ物質的責任ヲ負フコトナク単ニ遺憾ノ意ヲ表スルコトナラハ露国側ニ於テ一方のニ之ヲ為スヘキ旨ヲ承諾シタルモ右文案ノ審議ニ入ルヤ其ノ前半ニ於テ遺憾ノ意ヲ表シ乍ラ其ノ後半ニ於テ之ヲ曖昧ナラシムルカ如キ意味ノ文案ヲ固執セル為双方ノ意見ノ一致ヲ見ルニ

応シ得ヘキヤ(一)之ニ応シ得ルニ於テハ露国側トシテハ今回ハ非公式交渉ノ形式ニ依ラス直ニ正式交渉トシテ開会スル方得策ト思考スル趣ヲ以テ右二点ニ関スル帝國政府ノ意嚮ヲ承知シタキ旨申出タリ

惟フニ帝國ハ露国ニ対シ地理上政治上經濟上列国ニ比シ遙カニ密接ナル關係ヲ有シ殊ニ尼港事件及之ニ関連スル北薩哈噠問題ノ如キ可成急速ノ解決ヲ得策トスル懸案ヲ有スルノミナラス漁業問題森林伐採問題通商交通問題等永ク放置スルヲ許ササルモノアリ他方露国ノ状態モ漸次安定ノ域ニ向ヒ所謂新經濟政策ノ採用ニ依リ從來ノ極端ナル主義政策ヲ緩和セルノ觀アルノミナラス今回帝國ノ大災禍ニ際シ露国官民ノ表示セル同情ハ尠クトモ表面上顯著ニシテ露国政府側ニ於テモ此機會ニ日露親善ノ宿題解決ニ資セムトスル希望ヲ有スルモノノ如ク在支帝國公使ニ対スル「カラハン」氏ノ申出モ先方ヨリ進シテ交渉再開ヲ提議セムトスルモノナルヲ以テ帝國政府ニ於テハ之ヲ容諾シ交渉再開ニ同意スルコト可然ト認メラル尤モ過般非公式予備交渉ノ結果ハ前記ノ通尚不充分ナルニ鑑ミ此儘直ニ正式交渉ニ入ルモ果シテ予期ノ成果ヲ挙ケ得ヘキヤ否ヤ樂觀ヲ許ササルモノ

至ラス未決ノ儘留保セラレ次ニ極東領土内ニ於ケル森林及鉱産開発ニ関シ露国代表ハ如何ナル場合ニモ露国ハ日本ニ対シ他ノ外国ヨリ不利益ナル待遇ヲナサムトスル意ナシト云ヒ利権トシテ之ヲ許スルコトニハ同意ヲ表シタルモ國際義務問題即チ旧条約ノ承認日本ニ対スル債務ノ承認及没収シタル日本人ノ私有財産ノ返還又ハ賠償ニ関シテハ之ニ同意スルコトヲ拒絕シ其他通商条約締結ニ際シ互ニ他ノ一方ノ国民ニ対シ生命ノ安全私有財産權ノ尊重商工業ノ自由等ヲ保障スルコトニ関シテハ露国国内法ヲ遵守スル条件ヲ以テセハ露国側ニ於テ大体異議ナカルヘキ旨ヲ回答シ又相互ニ他方ノ安寧秩序ヲ脅威スル有害ナル宣伝及侵略行為ヲ禁止スルコトニ関シテハ之カ規定ヲ著シク広汎詳細ト為スノ条件ニテ受諾シ得ヘキ旨ヲ回答シタルカ尙兩代表ノ間ニハ諸般ノ点ニ於テ未タ充分意見ノ交換ヲ尽ササルモノアリタルニ拘ハラス右会谈ハ七月三十一日ヲ以テ急ニ打切ラルルニ至レリ

然ル処最近在北京露国代表「カラハン」氏ハ在支帝國公使ニ会见ヲ求メ(一)日本政府ニ於テハ国内復興事業ノ為メ多忙ナルニ拘ハラス若シ露国側ヨリ交渉再開ノ提議アラハ之ニ

アリト雖モ主要問題ニ対スル先方ノ意嚮ハ右予備交渉ニヨリ略ホ之ヲ推知スルヲ得ル次第ナルヲ以テ重ネテ予備交渉ヲ試ムルモ得ル所多カラサルヘキニヨリ今回ハ寧ロ先方ノ希望ニ応シ正式会商ヲ開始スルヲ可トスヘシ而シテ右正式会商ノ方法ニ関シテハ先ツ第一次会商ニ於テ露国トノ国交開始ニ必要ト認メラルル主要事項ニ付キ大綱ノ協定ヲ遂ケ次テ右協定成立後成ル可ク速ニ第二次会商ニ移リ細目ノ事項ニ関シ協議ヲ進ムルコトトシ差当リ「カラハン」氏ニ対シテハ在支帝國公使ヲシテ左記ノ趣旨ニテ回答セシムルコト可然

「帝國政府ニ於テハ目下震災善後措置ノ為多忙ヲ極メ居ル次第ナルモ露国政府ヨリ誠意ヲ以テ交渉再開ヲ提議シ来ルニ於テハ日露關係ノ緊密重要ナルニ顧ミ之ニ応シ正式会商ヲ開始スルニ異存ナシ」

右ニ依リ愈々正式交渉ニ入ルノ運トナラハ第一次会商ニ於ケル大綱ハ大体別記ノ方針ニ基キ協定スルコト可然  
尚勞農露国政府承認問題ニ関シテハ帝國ニ於テ予メ列国ノ了解ヲ得置クヘキ義務ナク又是等列國中既ニ单独ニ露国側ト交渉ヲ行ヘル諸国ニ就テ見ルニ其ノ對露交渉ニ関シ是迄

帝国政府ノ了解ヲ求メ来リタルモノナク從テ帝国政府ハ本問題ニ関シ全然自主的態度ヲ以テ行動スルノ自由ヲ有スル次第ナルカ対露問題ハ列国ニ於テモ相当重要視シ居ルコトナレハ若シ必要アリト認ムル場合ニハ列国ニ対シ帝国ハ露国ト地理上政治上經濟上特ニ重要ナル關係ヲ有スルノミナラス尼港問題漁業問題交通問題通商問題等迅速ノ解決ヲ必要トスル事項尠カラサルニ顧ミ日露国交開始ノ遷延スルコトヲ許ササル事情及国論ノ趨向ヲ楯トシ帝国政府ノ措置ヲ説明スルコトトスヘシ

(欄外註記) 閣議決定ノ運ニ至ラス

### (別記)

一、尼港事件解決条件トシテハ露国政府ヲシテ我領事及領事館員ヲ始メ居留民ノ虐殺ニ対シ陳謝セシムルコト尚本件ニ依ル損害賠償要求ハ主義トシテハ之ヲ拋棄スルヲ得サルモ露国現下ノ財政状態ニ鑑ミ同国ニシテ北樺太問題ヲ日本ノ為有利ニ解決スルニ於テハ本事件ニ対スル物質的賠償ノ要求ハ之ヲ提出セサルコトトスルモ差支ナシ

一、北樺太ハ帝国ト歴史上地理上特殊ノ關係アルニ顧ミ尼港事件ノ解決ニ関連シ露国側ニ於テ一億五千万円内外ノ

価格ヲ以テ我方ニ売渡ヲ承諾スルニ於テハ之ヲ買収スルコトトシ若シ露国側カ右以上ノ価格ヲ固執スルニ於テハ北樺太ニ於ケル重要利権ニ関シ日本政府又ハ日本会社ニ長期ノ利権ヲ許与セシムルコト

尚露国側ニ於テ右何レカノ方法ヲ承諾スルモ絶対ニ尼港事件ヨリ切り離シテ之ヲ行フコトヲ主張スル場合ニハ強テ之ヲ尼港事件ニ関連セシムル形式ヲ採ルコトヲ要セス

一、若シ露国側ヨリ尼港事件ニ対スル對抗要求トシテ西比利亞ニ於ケル日本軍ノ行動ニ付陳謝又ハ賠償ヲ要求スル場合ニハ其ノ理由ナキコトヲ指摘シテ之ヲ拒絶スルコト

一、北樺太撤兵問題ハ北樺太買収ニ決シタル場合ニハ自然消滅ニ歸スヘク又尼港事件ノ解決ト共ニ北樺太ニ於ケル利権許与ニ関スル協定確定的成立ヲ告グル場合ニハ速ニ撤兵スルコト

一、露国側ノ希望スル正式承認ニ付テハ帝国カ露国ト地理上政治上經濟上列国ニ比シ特ニ重要ナル關係ヲ有スルコト並諸種迅速ノ解決ヲ可トスル案件尠ラサルニ顧ミ先方ニシテ前述ノ趣旨ニヨリ尼港事件ノ解決ヲ承諾シ且ツ国際義務問題即(イ)旧条約問題(ロ)債權問題及(ハ)私有財産問題

ニ付我方ノ要求ヲ容ルルニ於テハ勞農露国ニ対シ正式承認ヲ為スモ差支ナキコト

国際義務問題解決ノ方法トシテハ左記方針ニ拠ルコト可然

(イ) 旧条約問題 日本政府カ旧露国政府ト締結シタル条約ニ関シテハ旧露国政府ノ地位ヲ継承セル勞農政府ハ国際信義ノ表章トシテ之ヲ承認スルコト当然ナルノミナラス一方の意思ニ依ル条約ノ廢棄ヲ認ムルコトハ将来ニ惡例ヲ殘スモノナルヲ以テ先ツ(一)勞農露国ヲシテ旧条約ヲ概括的ニ承認セシムルコト尤モ露国ニシテ旧条約及協定ニヨリ獲得セル我權利及利益ヲ尊重シ既成事実ニ變更ヲ加ヘサルハ勿論其他条約又ハ協定上ニ於ケル我方ノ地位ヲ不利ナラシメサル旨明確ナル了解ヲ与フルニ於テハ必要ニ応シ右ノ趣旨ニ基キ旧条約又ハ協定中新事態ニ適応セサルモノヲ改訂スルコトニ同意シテ可ナリ(二)露国側ニ於テ旧条約ノ概括的承認ヲ拒ム場合ニハ「ポーツマス」条約ハ滿鮮西比利亞等ニ対スル我国策ノ基準タリシモノナレハ之カ改廢ハ内外ニ対スル影響頗ル大ナルモノアルヘキニヨリ同条約ニハ断然手ヲ触レシメサル様致度シ

「ポーツマス」条約ハ日支間ノ問題ニモ影響スル關係アルヲ以テ之カ効力ノ存続スルト否トハ大ニ考慮ノ必要アルノミナラス露領沿岸ニ於ケル我漁業權ノ基本的規定ハ同条約中ニ包含セラレ居ルニヨリ「ポーツマス」条約丈ケハ其ノ儘依然効力ヲ有スル旨承認セシムルコトトシ其他ノ条約及協定ニツキテハ露国ニシテ前記ノ了解ヲ与フルニ於テハ新事態ニ適応スル様之カ改訂ヲ為スニ同意スルコト若シ万一(三)露国側ニ於テ第二ノ方法ニモ絶対ニ同意セサル場合ニハ旧条約ノ効力存否問題ニハ双方共触レサルコトトシ露国側ヨリ前記ノ明確ナル了解ヲ取付ケ旧条約全般ニ就キ右了解ノ趣旨ニヨリ審査ヲ加ヘタル上必要ナル事項ハ新事態ニ適応スル様更ニ約定スルコトトスルノ外ナカルヘシ

尤モ通商事項ニ就テハ後掲通商航海条約ニ関スル方針ニヨリ協定ヲ遂クルコトトシ差支ナキモ前記何レノ場合ニ於テモ日露両国以外多数国ヲ当事国トスル条約ノ存廢又ハ改訂ニ関スルコトハ他日關係国間ノ共同決定ニ留保スルヲ要ス

(ロ) 債權問題 我方カ露国ニ対シ有スル債權ハ勞農政府ヲ

シテ之ヲ認メシムルニ努ムヘキコト勿論ナルモ先方ニシテ其ノ支払ヲ困難トスル場合ニハ第二段ノ方法トシテ露国側ニ於テ主義上我方ノ債權ヲ認ムルニ於テハ我方ニ於テハ其額ヲ減免スルコトニ同意シ差支ナシ若シ露国側ニ於テ第二段ノ方法ニ対シテモ飽ク迄反対スルニ於テハ本問題ノ解決ヲ勞農政府承認ノ条件トスルコトナク本問題ハ之ヲ後日ノ協議ニ譲ルコトトスルモ差支ナシ但シ右第三段ノ方法ニ依ル場合ニハ我方ハ他国ニ比シ如何ナル場合ニモ不利ナル地位ニ置カレサル様保障ヲ取付ケ置クコト

(ハ) 私有財産問題 本問題ニ関シテハ前記債權問題ト同様ノ方針ニ依リ先ツ勞農政府ヲシテ其ノ返還又ハ賠償ヲ認メシムヘキモ場合ニヨリテハ勞農政府ヲシテ主義上返還又ハ賠償ノ義務ヲ認メシメ右ニ関スル實際の方法ハ後日ノ協議ニ譲ルコトトスルモ差支ナク又勞農政府ニシテ飽ク迄反対スル場合ニハ債權問題ト同シク之カ解決ヲ勞農政府承認ノ条件トスルコトナク之ヲ後日ノ協議ニ譲ルコトトスルモ差支ナシ但シ其場合ニハ債權問題ニ関スル第三段解決方法ノ場合ト同シ保障ヲ取付ケ置クコト

小柳ヨリ大臣へ

第四五号

十三日挨拶旁夫レトナク当地露側ノ意向ヲ探聞スル為執行委員長「ロビダ」ヲ往訪シタルニ日本人僅ニ……三十七、八名ニ過ギザルモ凡ベテ安定シ居リ從來差シタル問題ヲ惹起シタル事無キモ貴官ノ来任ニ依リテ一層日露間ニ親交其他連絡上好都合ナリト先ヅ世辞ヲ列ベ次イデ曩ニ「レイニン」号救援団ノ不祥事ヲ見タルハ遺憾ナルモ善隣国トシテ今次ノ震災ニ対スル露国ノ同情ハ依然トシテ變ラズ救援ニ歐露ヲ始メ西伯利各地ニ於テ義金募集中ニ在リ尚露国ノ現狀トシテ資本ノ流入ハ寧ロ歡迎スル処ナルヲ以テ速ニ日露協商ノ成立ヲ希望スル旨ヲ述ベ比較的打解ケタル談話ノ交換ヲ為シタル次第ナルガ十六日浦潮機関紙「クラスノエズナミヤ」上ニ小官ノ出張ニ関シ外交全權「ハービン」ガ日露間ノ協約設定セラレザル限り何等ノ特權特典ヲ付与スル能ハズ小柳ハ単ニ一私人トシテノ職權ヲ利用シ得ルニ過ギザル旨ノ記事掲載セラルルヤ「ロ」ハ頗ル狼狽シタル模様ニテ十七日早速公文ヲ以テ小官ノ出張ニ就テハ外交全權「ハ」ニ報告シ「ハ」ノ指令ヲ俟ツ事トシタル旨ヲ通知シ

五 日露国交回復交渉関係 三一九

一、以上ノ外通商航海ニ関スル条約ニ就テハ第一次会商ニ於テ其主要事項ヲ協定シ次テ可成速ニ開カルヘキ第二次会商ニ於テ細目ニ関スル協議ヲ遂クヘキ処大体ノ方針トシテ露国領域内ニ於ケル帝国臣民ノ生命ノ安全ニ関シ充分ナル保障ヲ得又私有財産權ノ尊重並ニ通商及産業ノ自由ニ就テモ成ルヘク広汎ナル範圍ニ亘リ之ヲ保障セシムル様努力スルコト

一、露国側ヲシテ帝国ノ安寧秩序ヲ害スルカ如キ宣伝又ハ行動ニ出テサラシムル為宣伝又ハ侵略的行爲ノ禁止方ニ就キ正式ニ約諾セシムルコト

一、極東露領ニ於ケル利源ノ開発ニツキ日本側ヨリ申出アリタル場合ハ勞農政府ハ門戸開放主義ニ基キ成ル可ク日本側ニ有利ナル条件ヲ以テ之ヲ許与スルニ異議ナキコトヲ約諾セシムルコト

三二八 十一月十八日 在浦潮渡辺總領事代理ヨリ  
伊集院外務大臣宛(電報)

小柳書記生ノ外交特權賦与ニ関スルソ側ノ態度報告ノ件

第八二五号 (十一月十九日接受)

来レリスノ如キハ「ハ」ノ態度ニ鑑ミ万一ヲ慮リ当出張所書類ハ普通本省来往信ヲ除キ全部浦潮ニ残置シ相当ノ注意ヲ払ヒ居レルモ今後通信連絡上又我方ニ影響ヲ及ボスヤモ計リ難キ事情モアリ御含ミ迄

三一九 十一月二十七日 在浦潮渡辺總領事代理ヨリ  
東郷欧米局第一課長(宛)  
酒匂通商局監理課長

当方面ニオケル対日圧迫手段ノ行使ノ状況報告並ニ日露間ニ条約關係ノ設定ヲ必要トスル意見具申ノ件

機密号外

拝啓益々御清穆ノ段奉賀候陳者日露正式交渉再開ニ急ナル勞農露国カ「カラハン」派東以来有ユル機会ニ於テ開催促進ニ努メアルニ対シ帝国カ種々ナル事情ノ為メ余リ迎応の態度ヲ示ササルヤニ認メタル露側ハ甚タ以テ慊ラストナシ漸次我ニ対シ圧迫の常套手段ニ出テ林業漁業其他幾多ノ懸案ニ対シ無条約關係ヲ楯ニ既得權ヲ無視シ不遜ノ態度ヲ示シ近クハ小官ノ職權ヲ否認シ外交郵書及暗号電信收受ノ特權ヲモ停止シテ居留民ノ利益保護權ヲ拒ミ以テ我方ヨリ屈シテ「エキゼクウオター」ヲ得ンコトニ努ムヘク即チ先方

四七五

ノ欲スル正式交渉ヲ余儀ナクセシメントシアル次第ハ屢次ノ報告殊ニ最近往電第八〇五号以後殆ント毎度ノ電報ニヨリ御知悉ノ儀ト被存候処小官ハ貴電第五二九号ノ後段「カラハン」提議ニ対スル帝國政府其後ノ御処置振リニ関シテハ承知致得サル処ナルモ若シ露側カ折角之レマテ色々申出居ルニ対シ我方ヨリ未タ何等御応答モ之レナカリシ事実アリトセハ先方ノ遣リ口ハ惡嫌憎ムヘシトハ謂ヘ第三者ノ地位ヨリ冷靜ニ判スレハ先方トシテ腐心ノ末斯カル手段ニ出ツルモ亦止ムナキモノトモ申サルヘキ様ニモ被考候而シテ小官ハ從來露側カスル手段ニ出ツレハ出ツル程我國民ノ特性トシテ益々先方ノ欲スル交渉再開ノ機ヲ遠サクルモノナルヲ以テ露當局ハ赤派迎合ノ無責任ナル我方一部ノ言論情報ヲ輕信シ小策ヲ弄スルヨリ寧ロ隱忍謙讓ノ態度ニテ誠意ヲ以テ我方ニ対スルコト大局上其ノ採ルヘキ途ナル所以ヲ幾多ノ例ヲ挙ケテ毎々露側有力者ニ説キ来リタルモ露側ハ常ニ日本カ始終自己ノ立場ト特性ノミヲ語リ露國ノ立場ヲ無視シテ其ノ主權ヲ侵害シ露側ヲ劣等非人扱ニナシナカラ露側ノミニ隱忍ト誠意ヲ強要サルルハ公正ナラス日本ノ所謂國民性ナルモノハ政府軍閥ノ手前勝手ナル行懸リ又ハ意

着眼シ可成速ニ彼ト相当ノ条約關係ヲ設定シ尼港問題薩哈噠撤兵其他幾多ノ懸案ヲ解決スルト同時ニ各般ノ利權ヲ確保シ条約ニヨリ彼我間權利義務ヲ明カニシ我方ノ憂トスル所謂對内對鮮ノ脅威除去ヲ約定シ（本件及通商等モ締約後直チニ効力ヲ見ルコト困難ナルベキハ論ナキモ兎ニ角無キヨリモ確ニ利益ニシテ漸次効力ヲ生セシメ得ベシ）進ンテハ經濟上政治上帝國ヲ優勝ノ地ニ置クコト刻下ノ急務ナリト確信致候小官ハ政府カ震災後ノ復興事業議會召集其他對内國務ノ為メ繁劇ヲ極メラルルヲ熟知致居候ヘ共日露交渉カ對内外政策上要緊急案件ノ一ナルヲ信シ其ノ開始一日ヲ遅ルレハ夫レ丈凡テノ点ニ於テ帝國ノ不利ヲ招クモノト夙ニ信スルモノニ有之候然ルニ斯ク申セハ露側最近ノ態度ニヨリ今更我ヨリ交渉ニ応スルハ第一面目上面白カラス第二國務多端ノ際故実際談判等ノ機ニアラス第三露國カ我実狀ヲ誤信シ居リ殊ニ震災後ノ弱点ニ付ケ込ム恐アルニ付目下時機ニアラス等ノ説アランカト被考モ第一ハ感情的行懸論ニシテ大局ヨリ觀レハ先方ハ既ニ我方ニ申込居レル事柄ニツキ別ニ屈スル訳ニモアラス開始ノ口実ハ多々有之ヘシト被考候然ルニ若シ反之此ノ儘ニ放棄セハ露側ハ愈々一層惡

氣地論ヲ謂ハルモノニシテ之ハ國民全体ノ意思自然ノ要求乃至社會ノ主張ニ對シ甚タ微力ナルヘキハ貴論西比利亞撤兵乃至意地張リノ軍艦日進ノ引揚カ自然ノ要求ニ余儀ナクセラレタルヲ雄弁ニ語ルモノナリ貴國一派ハ交渉ヲ欲セサルヘキモ國家人民カ遂ニ之レヲ強要スルノ時到来ヘシ露側ハ出来得ル限り讓歩隱忍シ来レルモ自己ノ面目威信ヲ損シテ迄モ懇願的ニ交渉ヲ欲セサルヘシ別ニ今日態々屈シテ迄交渉ヲ所望セサルモ日本カ各國ト競フテ露側ニ所望シ来ルノ日アルヘシ要ハ對等相互的ニ互ニ必要ヲ自覺シテ交渉ニ入ルノ日ヲ待ツヘキナリナドナカナカ高ク止マリ飽クマテ圧迫ト宣伝ニヨリ交渉ヲ迫ラントシアリ其ノ態度ト勞農露國ノ着々動カスヘカラサル地歩ヲ固メアル実況ハ小官ノ解スル我方一部人士カ抱キ来レル從來ノ對露觀トノ間ニ甚大ナル間隔アルヲ感セシメ居候勞農政府ハ六年ニ亘リ主義、理想、「ブラッフ」宣伝、努力及斷行等ニヨリ今日兎ニ角全露統一ノ実ヲ挙ケアリ其ノ施設ニ無理アリ欠陥アリ民間ニ不滿ト多少ノ動搖ハアリ得ヘク当路人物ノ異動施政ノ變更亦之アランモ政權ノ地歩ハ當分動カザルヘシトハ公平ナル觀察者ノ断定スル所ナルヲ以テ帝國トシテハ此点ニ

疎手段ヲ斷行シ彼我通商往来及其他ノ案件ニ於テ我居留民及當館ニ對シ事毎ニ圧迫ヲ加ヘ從來當館及館員側ニ默認セル各種免稅其他ノ特典ヲ停止シ遂ニハ曩ニ波蘭「チエツク」領事等ニ對シ為シタルカ如キ搜索引致等ヲモ強行シ少ナクモ英米仏等ノ如ク閉館引揚ヲ余儀ナクセシムルニ到ル惧ナキヲ保セス（特殊關係ニアル帝國ニ對シテハ恐ラク斯カル手段迄ニハ出テ得サルヘシトハ被考候モ）何分將來ノ不安ハ素ヨリ現ニ予テ生活ニ窮迫セル在留民中ニハ曩ニ當館ノ外交郵書停止事件ヲ機會ニ此際一同引揚ヲナサントノ計畫ヲナスモノアリタル（之ニ對シテハ輕拳ヲ戒メ置キタリ）有様ニ付今後ノ成行如何ニヨリテハ益々動搖シ内地輿論ニマテ影響ヲ及ホシ如何ニ惡化スルヤモ難計一方我方露國關係各種事業家モ此儘看過默視セサルヘク遂ニハ累ヲ政府ニ及ホスカ如キ事態ヲ生スルナキヲ保セストモ被考ニ付万一事茲ニ到リテハ出先小官等ノ苦境ハ別トナスモ政府ノ御立場モ甚タ面白カラスヤト被存ニ付寧ロ此際進ンテ交渉開始ヲ御斷行有之カ若シ第二ノ國務多端ノ關係上今直ニ談判着手ノ運ニ到ラサル事情之アラハ少ナクモ此際適當ノ手段ニテ我方ノ意嚮ヲ先方ニ内示シ露側ヲシテ暫ク安心セシ

メ在支公使ガ「カラハン」ト事実上ノ接触ヲ保チ意思疎通ヲ計ル事ニ相運ハハ幾分緩和シテ少ナクモ現状以上ノ圧迫ヲ敢テ為シ得サルヘシ(暗号権位ハ復旧ノ見込アリト被存)ト被考尤モ斯卡ル内示ハ我方ノ弱味ヲ示シ露側ヲシテ益々付込ミ増長セシムル嫌アリトノ説モ之ヲランモ結局交渉ノ決意アル以上淡白ニ意ヲ通シテ現時以上ノ苦々シキ手段ヲ弄セシメサルヲ得策ト思考致サレ候將又第三ノ時機關係論ハ如何ニ先方カ付込マントスルモ我方ノ実力ハ動カスヘカラサルモノナルニ付折衝了解ノ上先方ノ蒙ヲ解キツツ我方ノ主張ヲ固持スヘク時機ハ待テ待ツ程逸シ去リ益々不利ニ陥ルヘキハ既ニ彼ノ哈爾濱ニ於ケル島田「コゼウニコフ」私交渉以來大連長春東京ノ公私会商カ其ノ都度先方ニ強味ヲ加ヘ来レルノ觀アルニヨリ明カナリト被存候右ハ御当局ニ於テ既ニ業ニ充分御考究夫々御手配済ノ儀トハ萬々拝察被致候ヘ共近來盛ニ伝ヘラルル英米仏伊等諸国カ「ソウェト」露国ニ対シ漸次興味ヲ増シ此等諸国ニ於テ後者トノ通商締約等ニ関スル声高マリアリトノ諸報導ハ露側ノ宣伝モ加ハリ居ルナランモ亦相当抛ルヘキ所アル事実ナラント被考一方当地ニアリテハ現ニ独逸支那領事ハ依然相当ノ待遇ヲ受ケアリ既報ノ本夏引揚ケタル英領事「ペートン」ハ「エゼント」トシテ承認サレ既ニ帰浦シ「チエック」代表「ハイネー」領事ハ目下当地ニ出張シテ活動シアリ波蘭領事亦近ク職權ノ承認ヲ得ヘシトノ噂アル折柄貧弱ナカラ約八百ノ居留邦人及屬籍不明ナル数万ノ鮮人保護ノ任ヲ負ヘル小官カ職權ヲ否認サレ個人トシテ取扱ヘルニ到リタルカ如キ本夏ノ英米仏波領事等ノ境遇ニ逆転ノ悲境ニ陥リ今後幾多ノ難問続発スヘキモ何等手ノ着ケ様ナキ当館ノ情勢ニ鑑ミ之レカ根本的解決ハ在北京日露代表者ヲ介シテ雙方ノ意思疎通乃至兩國条約關係ノ設定ヲ急ク外之レナシト感セラレタル余リ右乍僭越所感ヲ述ヘ本省当局各位ノ御清鑑ヲ相仰度如斯御座候早々 敬具

大正十二年十一月二十七日

於浦潮總領事館

渡辺 理恵

通商局監理課長

酒匂 秀一殿

欧米局第一課長

東郷 茂徳殿

三三〇 十一月三十日 在浦潮渡辺總領事代理ヨリ 伊集院外務大臣宛

シベリア出兵ニヨリ露国ガ蒙リシ損害ニ関スル当地紙ノ報道報告ノ件

付屬書 シベリアニ於ケル日本ノ干渉ニ依リ被リタル損害 害

公第三九六号 (十二月十三日接受)

大正十二年十一月三十日

在浦潮斯德

總領事代理領事 渡辺 理恵(印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

西伯利ニ於ケル日本ノ干渉ニ依リ被リタル損害高ノ件

本件ニ関シ十一月三十日付当県機関赤旗紙ニ別紙要訳ノ如キ記事掲載有之右ハ原新聞ニ依リ既ニ御承知ノ儀ニシテ且ツ其数字モ誇大的ナリト被存候モ御参考迄ニ茲ニ御送付申進候 敬具

(付屬書)

西伯利ニ於ケル日本ノ干渉ニ依リ被リタル損害

五 日露国交回復交渉関係 三三〇

ヲ受ケアリ既報ノ本夏引揚ケタル英領事「ペートン」ハ「エゼント」トシテ承認サレ既ニ帰浦シ「チエック」代表「ハイネー」領事ハ目下当地ニ出張シテ活動シアリ波蘭領事亦近ク職權ノ承認ヲ得ヘシトノ噂アル折柄貧弱ナカラ約八百ノ居留邦人及屬籍不明ナル数万ノ鮮人保護ノ任ヲ負ヘル小官カ職權ヲ否認サレ個人トシテ取扱ヘルニ到リタルカ如キ本夏ノ英米仏波領事等ノ境遇ニ逆転ノ悲境ニ陥リ今後幾多ノ難問続発スヘキモ何等手ノ着ケ様ナキ当館ノ情勢ニ鑑ミ之レカ根本的解決ハ在北京日露代表者ヲ介シテ雙方ノ意思疎通乃至兩國条約關係ノ設定ヲ急ク外之レナシト感セラレタル余リ右乍僭越所感ヲ述ヘ本省当局各位ノ御清鑑ヲ相仰度如斯御座候早々 敬具

大正十二年十一月二十七日

於浦潮總領事館

渡辺 理恵

通商局監理課長

酒匂 秀一殿

欧米局第一課長

東郷 茂徳殿

「ジャパン、クロニカル」紙ハ極東ニ於ケル日本ノ領土占領ニ依リ露国ノ被リタル損害表ヲ掲載シ居レルガ同紙ハ日露会商問題再ビ起リツツアル此際極東ニ於ケル日本ノ領土占領ニ依リ露国ノ被リタル損害高ヲ明カニスルハ興味アルコトナリト云ヘリ

一九一九年沿海州樺太「カムサツカ」ニ於ケル漁業高ハ四千三百万円(或ハ金留)ニシテソノ五割五分ハ露国ノモノナリキ一九二〇年日本カ沿海州及樺太ヲ占領シ「カムサツカ」「オホツク」ノ連絡ヲ絶ツテヨリ露人ハ漁業經營ヲ中止スルノ止ムナキニ至リタリ上述ノ理由ニ依リ一九二〇年ヨリ一九二二年迄ノ間ニ於ケル露国ノ被リタル損害ハ毎年二千二百八十五万金留ニシテ三年間ノ損害ハ即チ六千八百五十五万金留ナリ此外毎年五百五十万金留ニ達シタル狩猟業及二千四百万金留ニ達シタル林業三年間ノ損害二千四百万金留ヲ加フルヲ要ス之等總損失高ハ九千二百五十万金留以上ニ達ス之等額ニハ日本ノ干渉ニ依リ消失セシメラレタル「コベラチーフ」又ハ所有ノ資本又ハ施設ノ評価又ハ荒サレタル鮭養殖ノ損害モ含マレ又小鮭ノ一部分ハ海ニ放チ一部分ハ食糧トシテ用ヒラレタリ之ハ将来ニ対シ二千万金

五 日露国交回復交渉関係 三三〇

留ヨリ三千万金留ノ損害ナリ  
又税関ニ於ケル損害ヲモ加フルヲ要ス到ル処ニ於テ日本品  
ノ無税輸入ヲ計ルタメ税関施設ヲ破壊シタル日本ノ干涉ハ  
著シキモノナリ之ノ結果禁制品例ヘバ銃器又ハ軍需品等輸  
入セラレタリ之カ損害ノ計算ハ暫ク措キ輸出貿易及税関  
収入ノ實際数字ヲ計算スルニ

| 輸出 | 年度   | 屯       | 数 | 価 格 (金留)   | 税関収入 (金留) |
|----|------|---------|---|------------|-----------|
|    | 一九二二 | 110,000 |   | 19,875,000 | 1,794,000 |
|    | 一九二三 | 110,000 |   | 31,840,000 | 2,056,000 |
|    | 一九二四 | 100,000 |   | 10,335,000 | 2,756,000 |
|    | 一九二一 | 111,000 |   | 1,101,000  | —         |

斯ノ如ク日本ノ干涉ハ事実ニ明カナル如ク露国ノ輸出貿易  
ヲ終息セシメ一九二〇年ヨリ一九二二年ニ至ル三年間一税  
関ノ収入ニ対シ最少百二十万金留ノ損失ヲ与ヘタリ

輸入

茶ノ例ヲ取ルニ

| 年度   | 屯      | 数 | 価 格 (金留)   | 税関収入 (金留) |
|------|--------|---|------------|-----------|
| 一九二三 | 55,000 |   | 44,940,000 | 3,599,000 |

四八〇

| 輸入 | 年度   | 屯      | 数 | 価 格 (金留)    | 税関収入 (金留) |
|----|------|--------|---|-------------|-----------|
|    | 一九二三 | 95,000 |   | 110,301,000 | 3,100,000 |
|    | 一九二四 | 80,000 |   | 77,284,000  | 2,918,500 |
|    | 一九二一 | 86,000 |   | 10,331,000  | 3,100,000 |

斯ノ如ク仮ニ一九二二年ヨリ一九二二年ニ至ル間ニ於ケル  
毎年ノ税関収入カ一九一四年ニ於ケルカ如クナラサリシト  
雖モコノ三年間ニ於テ八千七百万金留ノ損失ニシテ此期間  
ニ於ケル九百万ヨリ七千八百万金留ノ収入ヲ加算スルトキ  
ハ其総損失額ハ二億一千六百万金留以上ニ達ス  
数字不明ナル他ノ著シキ損失高ヲ計算セサルモ日本ノ干涉  
ニ依リ極東露領ノ被リタル損失高ハ最少二億三千九百万金  
留ニ達ス

三三一 十二月七日

在中国芳沢公使ヨリ  
伊集院外務大臣宛 (電報)

露支間ノ国交設定ニ関シカラハント王正廷ノ  
間ニ往復サレシ書翰発表ノ件

第一二二八号

(十二月八日接受)

十二月六日「ロスタ」通信ハ王正廷 日本へ出発前同氏ト  
「カラハン」トノ間ニ交換セラレタル書面ヲ発表セルカ右  
ニ依レハ最初王正廷ヨリ十一月二十一日付ヲ以テ「カラハ  
ン」ニ宛余ハ近日公用ニテ日本ニ赴クヘキ処二週間後ニハ  
帰来スヘキニ付帰来後直ニ交渉ヲ開始シ得ル様露国代表ニ  
於テ正式交渉開始ノ日取ヲ決定シ得ルコトヲ望ム旨ノ書翰  
ヲ送付シタルニ対シ「カラハン」ハ二十三日付ヲ以テ九月  
十三日付外交部「ノート」ニ依レハ大總統ニ対スル信任状  
提出問題ニ関シテハ目下考慮中ナル由ナリシカ既ニ二ヶ月  
ヲ経過スルモ未タ何等ノ回答ニ接セサル処ニ依リ支那政  
府ハ余ノ信任状提出ノ時機未タ到達セス別言スレハ露支間  
ニハ未タ正式外交関係設定ノ時機ニ達セサルモノト思考シ  
ツツアルヤニ推察セラル然レトモ余ハ正式交渉開始ノ時機  
ニ関スル会談ニ際シ露国政府ハ第一ニ露支間ニ於ケル正式

五 日露国交回復交渉関係 三三一 三三二

外交関係ノ速ナル復活ヲ要求シ此ノ点ニシテ実現スルニ於  
テハ直ニ交渉ヲ開始スヘキ意向ナル旨數々指摘シ置キタル  
ヲ以テ王氏ノ今回ノ交渉開始ノ希望ハ即チ支那政府カ王氏  
帰来ノ頃ヲ以テ露国トノ間ニ正式外交関係ヲ設定スルコト  
ニ決定シタルモノト解釈シ欣幸トスルモノナリトノ書翰ヲ  
送付シタリトノコトナリ

三三二 十二月十一日

在中国芳沢公使ヨリ  
伊集院外務大臣宛 (電報)

現下ノ日ソ間諸問題ニ関スルカラハントノ会

談要旨報告ノ件

第一一四一号

(十二月十二日接受)

先般来「カラハン」ハ頻ニ本使トノ会見ヲ希望シ茶若クハ  
食事ノ招ニ応スヘキヤ否ノ内意ヲ問合せ来レルコト一再ニ  
止マラサリシ所恰モ貴電第七二六号御電訓ニ接シタルヲ以  
テ十二月八日午餐ニ応シ往訪種々談話中先方ヨリ特ニ日露  
交渉開始遅延ノ理由ニ付頻ニ質問アリタルニ依リ実ハ九月  
二十二日ノ会見後新聞電報トシテハ屢々交渉開始ニ関スル  
報道アリタルモ何等政府ヨリノ回電ニ接セサル事実ト其後  
本使入手ノ情報トヲ綜合シ日本政府ニ於テハ震災復興事業

ノ為メ忙殺セラレ居ル關係上交渉開始ニ関シテハ好意的の考慮ヲ加ヘ居ル模様ナルニ拘ラス未タ之ヲ確定スルノ運ニ至ラサルモノト思考スル旨ヲ答ヘ次テ浦潮ニ於ケル露国官憲ノ態度等ニ関シ全然貴電御来示ノ通ノ趣旨ヲ説キ聞カセタル所「カラハン」ハ同地日本在留民ノ家宅搜索及身体検査等ノ事実ニ付テハ未タ知ル所ナキモ追放其他ノ措置ハ他ノ外国人ト區別スル所ナク齊シク法律ニ基キ為セルモノナリ又同地日本総領事館ノ「クーリエ」及暗号電信使用ノ特典ヲ禁止セルコトハ莫斯科ヨリノ報道ニ依リ承知セル事実ナルモ交渉開始遅延ニ対スル報復手段トシテ右ノ措置ニ出テタルモノニアラサル旨ヲ弁疏シタルニ依リ然ラハ「ヒント」トシテ為セルモノナリヤト言ヘルニ之ヲ笑ヒテ答ヘタル上先方ヨリモ注文アリトテ過般日本ニ寄港セル露国船舶乗組員ニ対シ日本官憲カ上陸ヲ禁止セルカ如キハ密ニ船員ノ感情ヲ害スルニ止ラス惹ヒテ一般露国民ノ対日感情ヲ悪化スヘキ旨ヲ述ヘタルニ依リ本使ヨリ右報道ノ事実ハ果シテ如何ナル事情ト理由トニ基ケルモノナリヤ承知セサルモ若シ何等誤解ニ起因セルモノナラハ諒解ヲ遂ケタル上其上陸ヲ許可スル様將又何等カノ理由ニ依ルモノナラハ之カ「アジ

ヤスト」方政府ニ上申スヘキ所在浦潮本邦居留民ニ対スル露国官憲ノ不穩当ナル取扱振リ及同地総領事館ニ対シ從來認め来レル待遇ヲ密ニ変更スル等ノ措置カ日露交渉開始ヲ促進セムトスル意味ナルニ於テハ斯ノ如キハ却テ日本国民ノ感情ヲ損フノ結果益々交渉開始ノ注意ヲ促シ且右浦潮露国官憲ノ措置ハ日本寄航ノ露国船舶乗組員ニ対スル日本側ノ待遇ト関連セル次第ナリヤト糾シタルニ「カラハン」ハ両者ハ全ク別箇ノ問題ナリト答ヘ在浦潮日本居留民及総領事館ニ対スル待遇ニ付テハ自分ヨリモ調査ノ上適當ノ措置ヲ講スル様取扱フヘシト述ヘタリ尚前記露国船員上陸禁止ノ件ニ付テハ「レニン」号以外何等事実アル次第ナリヤ御取調ノ上何分ノ義御回示ヲ請フ

註 右取調依頼ニ対シ折返シ十二月十三日伊集院大臣ヨリ第七三九号電報ヲ以テ「近頃露国汽船ノ来航スルモノ少カラサル処我方ニ於テハ一般的ニ其船員ノ上陸ヲ禁止シタルコトナク……」ノ旨回電セリ

三二三 十二月十四日 欧米局第一課起案

#### カラハンノ交渉開始提議ニ対スル我方対策二

#### 關スル件

露国労働政府ハ其ノ成立以来屢々帝國其ノ他主要連合國ニ対シ平和及通商關係ノ設定ヲ提議シタルモ其ノ成立当初ニ於テ社会主義的世界革命ノ遂行ヲ標榜シ國際戰ヲ轉シテ階級戰タラシムコトヲ高調シ露國ト連合國トノ間ニハ單獨不講和ノ条約アリシニ不拘独逸ト「プレスト・リトウスク」ニ和シ与國ヲ売り秘密条約及外債ノ無効ヲ宣言シ且明ニ世界各國ノ現存制度ヲ顛覆セシハ已マサルノ言動ニ出テタルノミナラス其ノ権力モ未タ全露ニ及ハサルコト遠カリシヲ以テ列國之ニ応スルモノナク事實上ノ經濟封鎖ヲ見ルニ至リタルヲ以テ戰時中既ニ物資ノ欠乏ヲ訴ヘタル露國ハ益益財政、經濟上ノ窮迫ヲ感スルニ至リタル結果愈々列國トノ國交及通商恢復ヲ希望シテ已マス大正八年四月具體的條件ヲ提示シテ我カ考量ヲ求ムル所アリシカ帝國政府ハ諸般ノ關係上之ニ答フル所ナカリキ

大正九年秋東部西伯利ニ建設セラレ非共產主義的民主制度ノ採用ヲ声明シ労働政府モ其ノ獨立ヲ承認シタル極東共和國ハ帝國政府ニ対シ屢々親善通商關係設定ノ希望ヲ表明シ大正十年七月ニハ具體的提案ヲ示シテ交渉開始ヲ切望シ来リタルヲ以テ帝國政府ハ同國力前記ノ如ク非共產主義的民

主制度ノ採用ヲ声明セルト露國力漸次安定ニ向ハムトスル狀勢アルトニ鑑ミ先方提議ニ応シ之ト大連ニ会商スルコトトシ一般通商問題ノ外我居留民ノ生命財産ニ対スル危險及帝國ニ対スル脅威ノ除去外國人ニ対スル各種生業ノ制限撤廃等ニ関シ保障ヲ得以テ可成速ニ沿海州ヨリ撤兵スルノ機運ヲ作ラントセリ然ルニ先方ハ會議中或ハ會議地ノ移轉ヲ提議シ或ハ華府會議ノ開催ニ乘シ虚構ノ宣伝ヲ行ヒ何等カ有利ナル事態ノ展開ヲ計ラントシ或ハ「ゼノア」會議ノ成行ニ望ミ嘱シ往再時日ヲ遷延セシメ我方ヨリ讓歩ノ結果略略議了シタル協約案ノ急速調印ヲ求ムルヤ我カ沿海州撤兵期ニ関シ不當ノ疑念ヲ挿ミ我方提議ヲ容レサリシ為七ヶ月ノ長キニ亘リシ同會議モ遂ニ決裂ノ不幸ヲ見ルニ至レリ連合國カ旧敵國及労働露國ヲ合併セ戰後全歐洲ノ經濟復興策ヲ議セムトシテ召集セル「ゼノア」會議ニ於テ労働代表ハ同會議ノ基礎條件タル「カンヌ」決定（内政不干涉、財産權ノ尊重、債務ノ承認、損害ノ賠償、宣伝及侵略禁止等）ヲ以テ最終的ノモノト認メサル旨ヲ陳述シ且日本ノ同會議参加ヲ不条理ト認ムル旨ノ抗議ヲ発スル等誠意ノ認ムヘキモノナク同會議ヲシテ予期ノ効果ヲ取ムルコトナクシ



テ解散スルノ已ムナキニ至ラシメ更ニ同會議ニ於ケル意見ノ相違ヲ緩和シ實際の方法ニ依リ露国トノ懸案ヲ解決セムトシタル海牙會議ニ於テモ同様ノ態度ニ出テ會議ノ決裂ヲ余儀ナクセシメタリ

大連會議決裂後帝國政府ハ敢テ自ラ交渉再開ヲ求ムルカ如キ態度ニ出テサリシカ大正十一年六月極東共和国政府ヨリ之カ再開ヲ希望シ来リタルヲ以テ帝國政府ハ先方トノ予備交渉ニ於テ我方ノ意向カ曩ニ大連ニ於テ略々議了シタル基本協定案及其ノ付屬文書案ヲ基礎トシ速ニ我國ト極東共和国トノ間ニ協定ヲ遂ケ漁業問題尼港事件等ハ基本協定締結後直ニ之ヲ討議セムトスルモノナルコトニ付明カナル了解ヲ取付ケ一方極東共和国ト労働露国トノ特種ノ關係ヲ諒トシ又漁業問題ノ如キハ労働露国トモ協議ノ必要アルニ鑑ミ同国代表ノ會議参加ニ承諾ヲ与ヘ之ト長春ニ会商セリ然ルニ極東共和国及労働露国代表ハ會議開催後前記予備交渉ノ諒解ヲ齟齬シ會議ノ範圍ヲ拡大シ日本ヲ一方トシ労働露国及極東共和国ヲ他ノ一方トシ其ノ間ニ一般協約ヲ締結セムコトヲ主張シ且突然議題外ナル尼港事件ヲ提起シ同事件ノ解決如何ニ拘ラス同事件解決ノ保障占領タル北樺太ノ撤兵期

公式予備交渉ノ開催ヲ見ルコトナレリ

右交渉ニ於テ露国側ハ日露會議開催ノ予備条件トシテ労働露国ノ正式承認及北樺太ノ撤兵期日ノ明示ヲ要求シタルヲ以テ我方ハ對抗要求トシテ(一)尼港事件ノ解決(二)右ニ関連シ北樺太問題ノ解決(三)國際義務ノ履行ヲ要求シ別ニ(イ)門戸開放主義ニ基キ極東露西亞ニ於ケル利権ヲ許スルコト(ロ)通商条約ノ締結ニ際シ日本国民ニ対シ生命ノ安全ヲ保障シ私有財産権ヲ尊重シ可成広汎ナル範圍ニ於テ商工業ノ自由ヲ保障スルコト(ハ)相互ニ当事国一方ノ安寧秩序ヲ脅威スル宣傳及侵略行為ヲ禁止スルコトヲ提議シタル所露国側ハ尼港事件ニ関シテハ我ニ遺憾ノ意ヲ表スルコトハ差支ナシト讓歩シ北樺太問題ニ関シテモ細目ノ条件ニツキテハ之ヲ留保シタルモ主義上我方ニ利権ヲ与フルニ異存ナキ旨ノ意向ヲ明ニシ其ノ他ニ対シテハ(ロ)ニ関シ国内法ヲ尊重スルヲ条件トスルニ於テハ異存ナキ旨ヲ答ヘ尚國際義務問題ニツキテハ全然我方ノ要求ヲ拒絶シタリ我方ニ於テハ尚引続キ十分ナル意見ノ交換ヲ行ハムコトヲ予期シタルニ露国側代表カ主トシテ一身上ノ都合ヨリ頻リニ非公式予備交渉ノ終了ヲ主張シタル為已ムナク交渉ヲ打切ルコトナレリ

明示ヲ求メタル為會議ハ再ヒ決裂ニ終レリ

其後大正十一年十月日本軍沿海州及樺太对岸撤兵ニ伴ヒ極東露西亞ノ全部ハ極東共和国ノ政權下ニ帰シ同年十一月十四日同共和国カ労働露国トノ併合ヲ決議スルニ及ンテ労働政府ハ西ハ波羅的海ヨリ東ハ太平洋ニ至ル露国全土ニ其ノ政權ヲ普及スルニ至レリ

長春會議ニ於テ病ヲ得タル在支労働代表「ヨッフエ」氏ハ後藤子爵ノ招待ニ応シ大正十二年二月本邦ニ渡来シ医療ヲ加ヘツアリシカ同氏トノ間ニ日露關係ニ関スル私的意見ヲ交換シタル同子爵ハ露国側カ日露會議開催ヲ希望スルコトヲ申入レ之ニ関スル帝國政府ノ意向ヲ尋ヌル所アリタリ後藤子爵トノ私的會談ニ於ケル「ヨッフエ」氏ノ主張ハ帝國政府ノ意向ト相異スル所尠カラサリシモ日露兩國ノ親善ハ帝國政府ノ希望スル所ニシテ兩國ノ間ニ蟠マル諸懸案ヲ速ニ解決シ修好及通商關係ヲ設定スルコトハ双方ノ為望マシキコトナルヲ以テ兩國間ニ非公式予備交渉ヲ開キ各種ノ重要問題ニ関シ腹藏ナキ意見ノ交換ヲ行ヒ正式交渉ニ入り得ヘキ基礎ヲ発見スルニ努力スルヲ辞スルモノニアラサルコトヲ回答シ其ノ結果東京ニ於テ日露會議開催ニ関スル非

然ルニ「ヨッフエ」氏ノ後任トシテ北京ニ来レル労働代表「カラハン」氏大正十二年九月二十二日在支芳沢公使ヲ訪問シ(一)日本政府ハ国内復興事業ノ為多忙ヲ極メ居ル事情ニ拘ラス若シ露国側ヨリ交渉再開ノ提議ヲナサハ之ニ応シ得ヘキヤ(二)若シ応シ得ルニ於テハ露国側ハ曩ニ東京ニ於テ行ハレタル交渉カ中絶シタルニ顧ミ今回ハ非公式交渉ノ形式ニ依ラス直ニ正式交渉トナス方得策ナリト思考スル旨並此ノ二点ニ関スル日本政府ノ意向ヲ承知致度キ旨申出テタリ抑モ帝國ハ露国ト壤ヲ接シ政治上ニ於テハ尼港事件ノ如キ又經濟上ニ於テハ漁業林業問題等ノ如キ迅速解決ヲ利益トスル幾多ノ重要問題アルノミナラス露国ハ本来農業国ナルヲ以テ工業國ニ比シ国力ヲ恢復スルコト速ナルヘク既ニ本年度ニ於テハ輸出入ノ均衡ヲ得タル次第ナルヲ以テ相当ノ程度迄國際地位ヲ恢復スルコト遠カル間數從テ世界殊ニ亞細亞ノ政局ニ重大ナル影響ヲ及ホスヘキ運命ヲ有スルニ顧ミ之ト早キニ臨ンテ親善關係ヲ樹立シ置クコトハ外交上經濟上及國防上我國ノ地位ヲシテ安固ナラシムル利益アルヘキノミナラス其他

(一) 労働政府カ現ニ旧露帝國ニ於ケル唯一ノ政權ニシテ成

立以来既ニ六ヶ年ノ年月ヲ閲シ内政上ニ於テハ其ノ基礎漸次鞏固ヲ加ヘ近時同政府ヲ組織スル共產党ノ一部黨員間ニ改造運動抬頭セリト伝ヘラルルモ同党現幹部ノ独裁行為即チ左派乃至中央派ノ右傾派ニ対スル反対運動ニシテ彼等ト雖モ党ノ分裂ヲ賭スルモノニアラサルカ如ク殊ニ最近同党中央委員会ニ於テ所謂労働民主主義ヲ決議シ党内各機關従来ノ任命制度ヲ選舉制度ニ改革スルコトトシ多少改造派ノ主張ヲ容レタルコトニモアリ将来共多少ノ曲折ハ免レサルヘキモ結局「レーニン」主義ヲ繼承セル現幹部ノ勝利ニ帰スヘシト觀察セラレ今後突発的事件ノ起ラサル限リ差当リ同政府ノ崩壊ヲ予想スルコト難ク他面外交上ニ於テモ露国ト特殊ノ關係ニアル独逸波蘭芬蘭「エストニア」「ラトヴィヤ」「リシアニア」土国波斯「アフガニスタン」等カ露国ト平和及修好条約ヲ締結シ之ヲ正式ニ承認セルハ之ヲ格別トスルモ英伊丁墺「チエコスロヴァキヤ」諾威ノ六ヶ国ハ之ニ事実上ノ承認ヲ与ヘ何レモ通商又ハ外交代表者ヲ交換シ尚ホ近來伊国ニ於テハ本年十一月二十日ノ議會ニ於テ総理「ムッソリニ」氏ハ數週前ヨリ再開セラレタル伊露通商条約締結ニ関スル

權利ノ回復ヲ承認セサル今日一九一九年總選舉ニ際シ選舉民ニ約束シタル關係モアリ來春ノ總選舉ヲ控ヘ今直ニ對露態度ヲ急変スルコトナカルヘシトノ觀察アルモ民間有志ノ間ニハ對露通商關係ノ設定ヲ説クモノ漸次多キヲ加ヘ上院議員「ド・モンジー」ノ如キハ來春ノ總選舉後ニ於テ對露通商開始ノ運動ヲ起サントシ又一部政界ニハ政府モ四囲ノ事情ニ迫ラレ其ノ態度ヲ變シ數ヶ月内ニハ露国ト正式關係開始ノ時機來ルヘシト信スルモノアリテ勞農非公式代表者ノ駐在及勞農当路ノ訪仏等露国側ノ暗中飛躍ト相俟テ漸次仏国ノ對露政策ニモ變更ナシト断言シ得サルヤニ觀察セラル又今日迄終始承認反対ノ態度ヲ保持シ來リタル米國ニ於テモ大統領「クリーッヂ」氏ハ大正十二年議會教書中「米國政府ハ同國民カ露國民ト通商ヲナスニ反対スルモノニアラス只タ國際義務ノ承認ヲ肯セサル他國政府ト關係ヲ設定スルコト能ハサルノミ通商上利益ヲ得ル為現生活ノ貴重ナル權利及米國ノ主義主張ヲ売ルコトヲ得サルナリ乍去露國民ヲ援助スルカ為多大ノ讓歩ヲ為スニ吝ナルモノニアラス露國ハ従前ノ社会状態ニ復歸シツツアルノ証跡認メラルルモ未タ之ヲ以テ

交渉ハ已ニ大体ノ成立ヲ告ケタル旨並ニ露國ノ正式承認ハ國家ノ利益ヨリ見テ公正ニシテ何等ノ困難ナキノミナラス兩國ノ經濟關係ヲ容易ニシ延テ海外ニ於ケル伊國ノ經濟的發展ヲ助長シ國民ノ福祉ヲ増進スルモノナリト演説シ滿場一致ノ賛同ヲ得タル程ニシテ露國承認ハ今ヤ同國各政党ノ等シク是認スル輿論トナリ英國ニ於テハ大正十一年十一月保守党ノ組閣ニヨリ同國ノ對露政策強硬トナリ來リタルモ今次ノ總選舉ニ於テ保守党ハ下院ニ於ケル絶對多數ヲ喪失シ労働党及自由党ト共ニ鼎立ノ状ヲ呈シタルヲ以テ何ノ途對露政策ノ緩和ヲ見ルヘシト予想セラル又諾威ニ於テハ「スビッツベルゲン」ニ對スル同國ノ主權承認ヲ条件トシテ露國ヲ正式ニ承認スヘシト伝ヘラレ瑞典ニ於テハ大正十一年三月一日調印ヲ見タル瑞露通商仮協約ハ同年五月同國議會ニヨリテ否決セラレタルモ其ノ後社会労働党ノ切望ニ依リ正式承認ハ未タ之ヲ考量セサル如キモ前記仮協約ヨリ有利ナル条件ヲ得ハ露國ト條約ヲ締結スル意向ナル趣ニテ大正十二年十一月十七日交渉再開ノ為委員ヲ任命シ仏國ニ於テハ政府ハ依然露國承認反対ノ態度ヲ變更セス下院モ亦露國カ旧債務及個人

足レリトスルヲ得ス露國カ米國人民ヨリ奪ヒタル財産ヲ賠償シ米國政府ト結ヒタル債務契約ヲ承認スル何等ノ意向認メラレ又吾人ノ社会制度ニ對スル大ナル敵意ヲ緩和シ其ノ過誤ヲ改ムルノ状現ハルルニ至ラハ米國ハ率先同國ノ經濟的並道德的援助ヲナスヘク其ノ時機ノ近カラシコトヲ希望スル」旨ヲ演説シタル等本年初メニ比スレハ露國承認ノ氣運ニ向ヒタルハ之ヲ否認スルヲ得サルヘク  
(二) 勞農政府ハ其ノ成立当初ニ於テ共產主義ヲ國內ニ實現セントシタルノミナラス世界ヲ挙ケテ露國ト同一ノ制度ニ化セントシ國內ニ於テハ個人ノ所有權ヲ否認シ土地森林鉦山鐵道工場銀行等ヲ國有トシ商業ヲ國家ノ独占事業トナシ外國ニ對シテハ社会主義的革命ヲ宣伝シタルモ其ノ結果封鎖ノ状態ニ陥リ外物資ノ供給ヲ絶タレ内産業ノ頽廢加ハルニ及ヒ大正十年初以来新經濟政策ヲ實施シテ或ル程度迄個人ノ所有權ヲ認メ外國貿易ハ依然國營又ハ國家機關ノ監督ニ依ラシムルモ國內商業ハ自由トナシ且小工場ハ之ヲ個人ニ貸下クルニ至リ大勢ヨリ之ヲ見ル処露國ノ經濟政策ハ結局國家社会主義的ニ落付クモノト想像セラレ一方又宣傳ノ危險ニ對シテハ勞農政府ヲシテ

之カ禁止ヲ約セシメ以テ宣伝取締ニ便スルヲ却テ得策ナリトスヘシト認メラルルヲ以テ「カラハン」氏ノ申出ニ對シテハ我方ニ於テモ好意的考慮ヲ加ヘツツアル次第ナルモ他方今回ノ提議ハ未タ交渉開始ヲ正式ニ提議セルモノニアラスシテ単ニ我方ノ意向ヲ「サウन्द」セントスルニ外ナラス加之勞農政府從來ノ態度ニ鑑ミルニ常ニ駭引ヲ事トシ誠意ヲ欠ク場合多ク今回同氏ノ申出ノ如キモ如何程迄誠意ヲ有スルヤ不明ニシテ殊ニ尼港事件ト相並ヒテ我方ノ重キヲ措ク國際義務問題殊ニ旧條約問題ニ付先方カ如何ナル程度迄我方ノ主張ヲ容ルヘキヤニ就テハ交渉開始前慎重ニ先方態度ヲ察知スルノ必要アリ尚又先方ハ最近浦潮ニ於テ從來認メ来レル帝國總領事館ノ暗号電報及外交文書発受ノ特典ヲ突如停止シ且在留邦人ニ對シ種々庄迫ヲ加フル等我方ヲ不利不便ノ地位ニ陥レ交渉開始ニ応スルノ余儀ナキニ立至ラシメントスルカ如キ常套手段ヲ弄シ居ルヲ以テ直ニ交渉開始ヲ応諾スルニ於テハ先方ノ術中ニ陥リタリトノ觀ヲ与ヘ先方ニ氣勢ヲ加ヘシムルノミナラス殊ニ勞農當路ノ一部ニハ震災ノ打撃ニ依リ日本ノ国力著シク減退セリト觀察スルモノアルヲ以

テ我方ヨリ容易ニ交渉応諾ノ意嚮アルヲ示スニ於テハ先方ヲシテ益々非妥協的ナラシメ折角交渉ヲ開始スルモ予期ノ成果ヲ収ムルコト能ハサル恐アリ故ニ我方ニ於テハ正式ナラサル方法ニヨリ先方ト連絡ヲ執ル一方輕挙妄動ヲ慎ミ從容迫ラサルノ態度ヲ持シ我方カ特ニ露國トノ交渉ヲ急キ又ハ交渉ヲナスノ必要ニ迫ラレ居ルモノニアラサルコトヲ充分諒解セシメ先方カ帝國ノ真価ヲ認メ誠心誠意互譲妥協ノ精神ヲ以テ交渉ヲ希望シ来ル様善導スルヲ尤モ得策ト認メ折角右ノ方法ヲ講シツツアル次第ナリ尚在支勞農代表「カラハン」氏ハ大正十二年十二月五日付芳沢公使宛公文ヲ以テ日本海沿岸ノ漁区七十並黒竜、沿海及「カムチャツカ」県ノ林区五十万「デシヤチン」(一「デシヤチン」ハ我カ一町一反四畝余)ヲ通常價格ノ二割五分ヲ以テ本邦罹災民ニ提供スル旨ノ同国日本震災救済委員會決定ヲ通告スルト共ニ右通告ニ對シ帝國政府ノ執ルヘキ措置等ニ付回答ヲ求メ来リタルヲ以テ提供セントスル漁区及林区ノ場所等不明ノ箇所ニツキ詳細目下先方ニ照会中ナリ

(付)

スル旨ヲ述ヘタリ

三二四 十二月二十八日

伊集院外務大臣ヨリ  
在米國壇原大使宛(電報)

米新聞特派員報道ニ関スル照会ニ對シ回報ノ

件

第七一四号

貴電第八五〇号ニ関シ

十二月二十四日当地「パブリック・レヂャー」特派員ヨリ情報部ニ對シ最近ノ米露間往復ニ関連シ日露交渉問題ニ付質問アリタルニヨリ同部次長ヲシテ大体左ノ通り答ヘシメ置キタルコトアルニ過キス御含迄

米露間ノ往復ハ日本トシテ批評スヘキ地位ニ非ルモ日本ハ接壤ノ關係ト西比利亞方面ニ於ケル我國民ノ諸種ノ利害關係上露國トノ關係ヲ Improve スルコトハ深ク希望スル所ナリ從而大連長春ノ二會議及今夏東京ニ於ケル非公式會談トナリタルモ何レモ未タ妥商ヲ得ルニ至ラス乍去前陳ノ理由ニヨリ我國ハ速ニ露國トノ關係ノ改善セラレムコトヲ希望シテ已マス然レトモ日本トシテ最モ重ヲ置クハ尼港事件及國際義務問題ノ満足ナル解決ニアリ即チ日露關係ノ改善ハ一ニ懸ツテ露國ノ態度如何ニアリト云フヘシ

露國勞農當局ハ過去十數年乃至數ヶ年ニ亘リ極東ニ扶殖セラレタル外國銀行ノ実勢力ヲ無視シ或ハ沿海県ニ於ケル露貨流通高僅々三四十万留ナルニ比シ民間保有高ヲ合スルトキハ約六百万円ノ流通高ヲ有スル朝鮮銀行ニ對シ大正十二年七月十五日限り其ノ銀行券ヲ回收スヘキヲ命シ或ハ國家及自治機關並「コオペラチヴ」ノ支払授受ハ同年十月一日以後外國貨幣ヲ以テスルヲ禁止シ或ハ在浦潮朝鮮銀行及橫浜正金銀行支店ニ對シ露國法律ニ依リ各其ノ本店ヨリ獨立セル銀行トシテ認可ヲ受クヘキ旨ヲ要求シタリシカ其ノ後同地方ニ於ケル財政金融上ノ実狀ニ照シ右ノ如キ措置ノ実行不可能ナルヲ悟リタルモノノ如ク朝鮮銀行券ノ回收ハ期限後モ依然實施ヲ強制スルコトナク又外國貨幣授受ノ禁止令ハ最初大正十二年十二月一日迄之ヲ適用セサルコトシタリシカ最近更ニ大正十三年二月二十三日迄之ヲ適用セサルコトトシ又在浦潮本邦銀行支店ノ存続問題ニ関シテハ極東ニ於ケル其ノ意義ヲ認メ從前通り其ノ業務繼續ヲ許可スルコトナレリ

尚露國々立銀行浦潮支店長ハ在本地朝鮮銀行支店長ニ對シ日露銀行ヲ一団トスル合併銀行ヲ設立セントスル意見ヲ有